

平成 17 年度  
「臨床研修に関する調査」  
研修 2 年次生分中間報告書  
(研修 2 年次生の進路について)

平成 18 年 5 月

厚生労働科学研究費補助金研究

「新医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」

「卒前教育から生涯教育を通じた医師教育の在り方に関する研究」

調査票の回収中であるが、本中間報告は、参考として研修 2 年次生の進路を中心に取りまとめたものである。追って取りまとめる最終報告と確定数等が異なるため、本中間報告の利用に際し、注意が必要である。

## 目次

I	調査の概要	3
II	調査結果	4
1	回答者の概況	4
2	質問項目の回答集計結果	6
	【1】臨床研修について	
	[1] 病院の属性について（問1～問4）	
	[2] 研修期間の内訳について（問5～問6）	
	【2】臨床研修後のことについて	
	[1] 研修後の進路について（問16～問18）	
	[2] 専門としたい診療科について（問19）	
	[3] 専門医等の取得について（問20～問21）	
	[4] 将来の進路について（問22）	
	[5] 仕事と生活とのバランスについて（問23）	
	[6] 大切に思うことについて（問24）	
	【3】研修医のプログラムを管理している病院の種類による集計	
	【4】臨床研修修了後の進路別にみた集計	
	【5】性別による集計	
	[1] 性別にみた診療科の選択	
	[2] 性別にみた仕事と生活のバランス	
	【6】専門としたい診療科別の集計	
	[1] 専門としたい診療科別にみた臨床研修終了後の進路	
	[2] 専門としたい診療科別にみた診療所の開業の希望	
	[3] 専門としたい診療科別にみた医学博士号取得の希望	
	[4] 診療科別仕事と生活のバランス	
III	調査票	36

## I 調査の概要

### 1. 調査目的

新医師臨床研修制度の効果等を検証・分析するための基礎となるデータを収集するため、臨床研修病院及び研修医に対し調査を行うもの。

厚生労働科学研究費補助金「新医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」班（主任研究者：福井次矢（聖路加国際病院院長））と「卒前教育から生涯教育を通じた医師教育の在り方に関する研究」班（主任研究者：篠崎英夫（国立保健医療科学院院長））の合同調査として実施した。

### 2. 調査対象

単独型及び管理型臨床研修病院

単独型相当及び管理型相当大学病院（合計で849施設）

当該病院の研修プログラムに在籍する臨床研修医

（1年次 7,526人、2年次7,344人 計14,870人）

### 3. 調査内容

共通質問（全病院、全研修医（1年次、2年次））

・研修の満足度、研修修了後の進路 等

追加質問（2年次研修医5人に1人）

・知識、技術等の修得状況 等

### 4. 実施時期

平成18年3月（配布）

## 5. 調査方法

病院用と研修医用の調査票を各病院に郵送し、研修医用の調査票を病院で取りまとめたのち、病院用調査表と合わせて郵送で回収した。

平成18年4月11日時点での2年次生研修医回収数2500(34.0%)で、  
2年次生の研修修了後の進路に関する項目について集計を行った。

## II 調査結果

### 1 回答者の概況

#### (1) 性別

女性の割合は34.5%で、全体の約1/3を占めた。

性別	人数	割合(%)
男性	1613	64.5
女性	863	34.5
不明	24	1.0
全体	2500	100.0

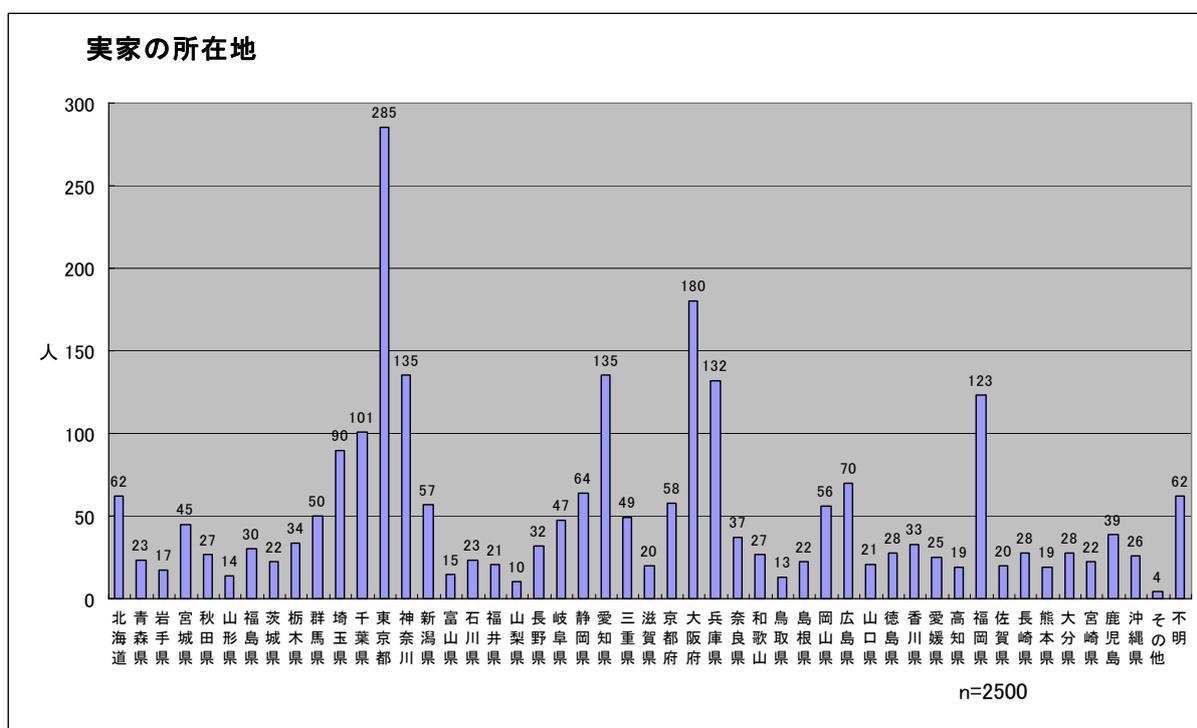
#### (2) 年齢

平均	27.7 歳
標準偏差	2.6
最大値	56.0 歳
不明	55 人
全体	2500 人

### (3) 実家の所在地

最も人数が多かったのは東京都で、285人。続いて、大阪府 180人、神奈川県、愛知県 135人、兵庫県 132人、福岡県 123人であった。

最も人数が少なかったのは山梨県で10人。続いて、鳥取県 13人、山形県 14人、富山県 15人、岩手県 17人であった。



## 2 質問項目への回答集計結果

調査票の質問項目は問1～問26までの大項目で構成されており、

### 【1】臨床研修について

- [1] 病院の属性について（問1～問4）
- [2] 研修期間の内訳について（問5～問6）
- [3] 研修中の時間外勤務について（問7～問8）
- [4] 受持症例について（問9）
- [5] 研修への満足度について（問10～問13）
- [6] 説明との異同について（問14）
- [7] 相談体制について（問15）

### 【2】臨床研修後のことについて

- [1] 研修後の進路について（問16～問17）
- [2] 専門としたい診療科について（問19）
- [3] 専門医等の取得について（問20～問21）
- [4] 将来の進路について（問22）
- [5] 仕事と生活とのバランスについて（問23）
- [6] 大切に思うことについて（問24）

【3】臨床研修で身に付いた基本的な臨床知識、技術、態度について（問25）（追加質問）

【4】臨床研修での経験症例数について（問26）（追加質問）  
のそれぞれについて、回答してもらうものである。

本中間報告では、臨床研修後のことに関連する設問を中心に集計を行った。

なお、問18（臨床研修修了後に勤務・研修する都道府県）については、都道府県別の回収率が大きく異なり、実態を反映していない可能性があるため、本中間報告では集計しなかった。

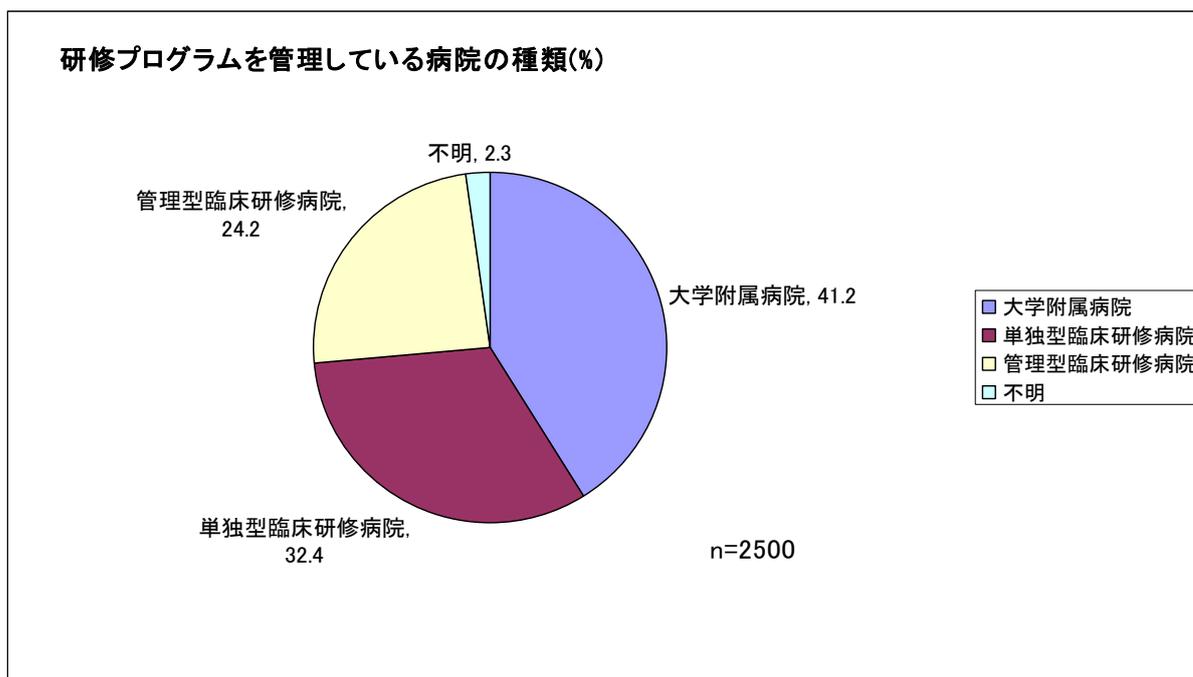
【1】臨床研修について

[1] 病院の属性について（問1～問4）

問1～問4では、研修医の勤務する病院の属性について尋ねた。

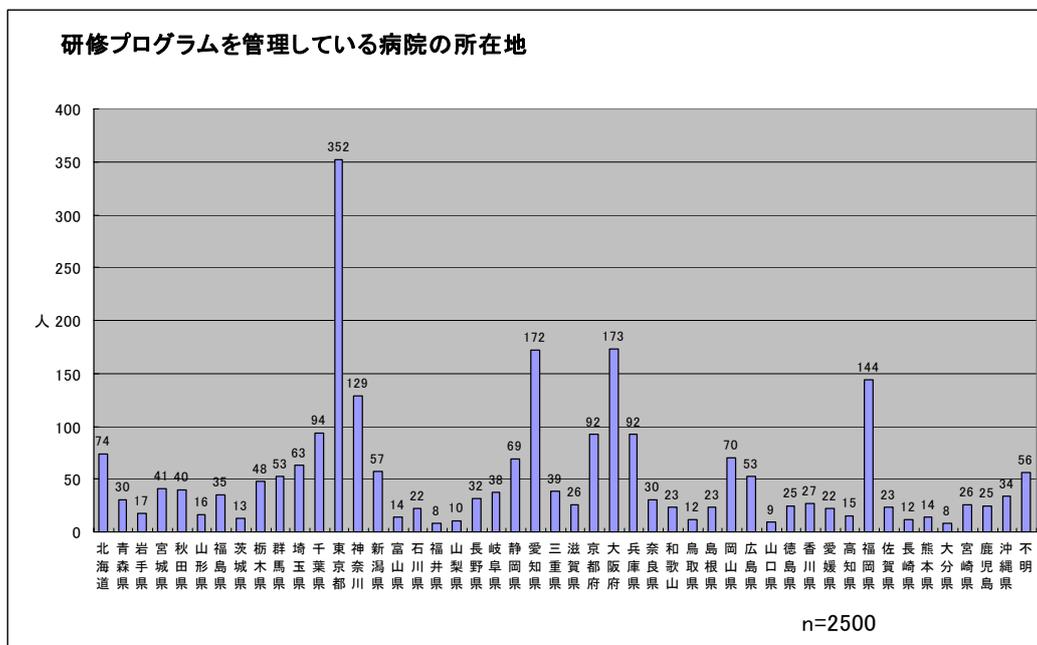
問2 研修医のプログラムを管理している病院の種類

大学病院が41.2%、臨床研修病院が56.6%であった。



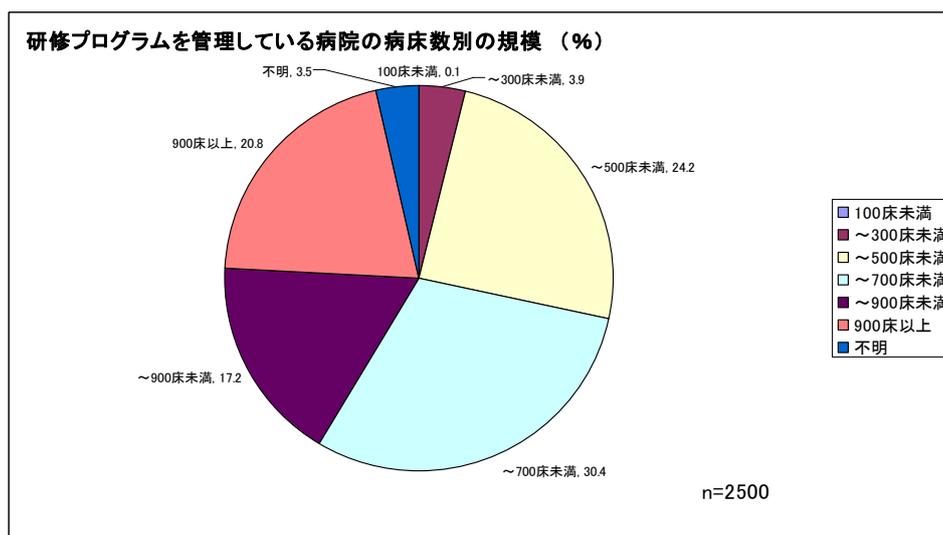
### 問3 研修プログラムを管理している病院の所在地

最も多いのは、東京都 352 人。次いで大阪府 173 人、愛知県 172 人、福岡県 144 人であった。最も少ないのは、福井県、大分県 8 人。続いて、山口県 9 人、山梨県 10 人であった。



### 問4 研修プログラムを管理している病院の病床数別の規模

最も多いのは、500 床以上 700 床未満の病院であった。300 床未満の病院も 4.0%あった。

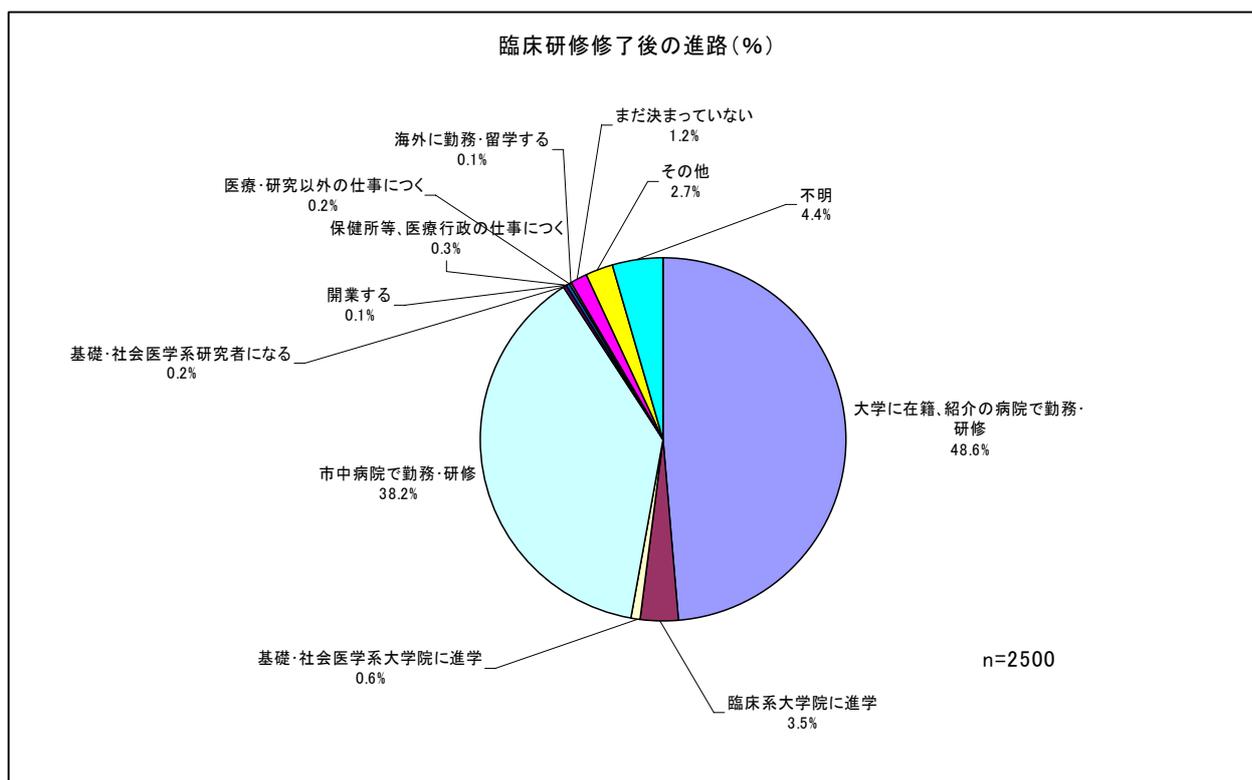


## 【2】臨床研修後のことについて

### [1] 研修後の進路について（問16～問18）

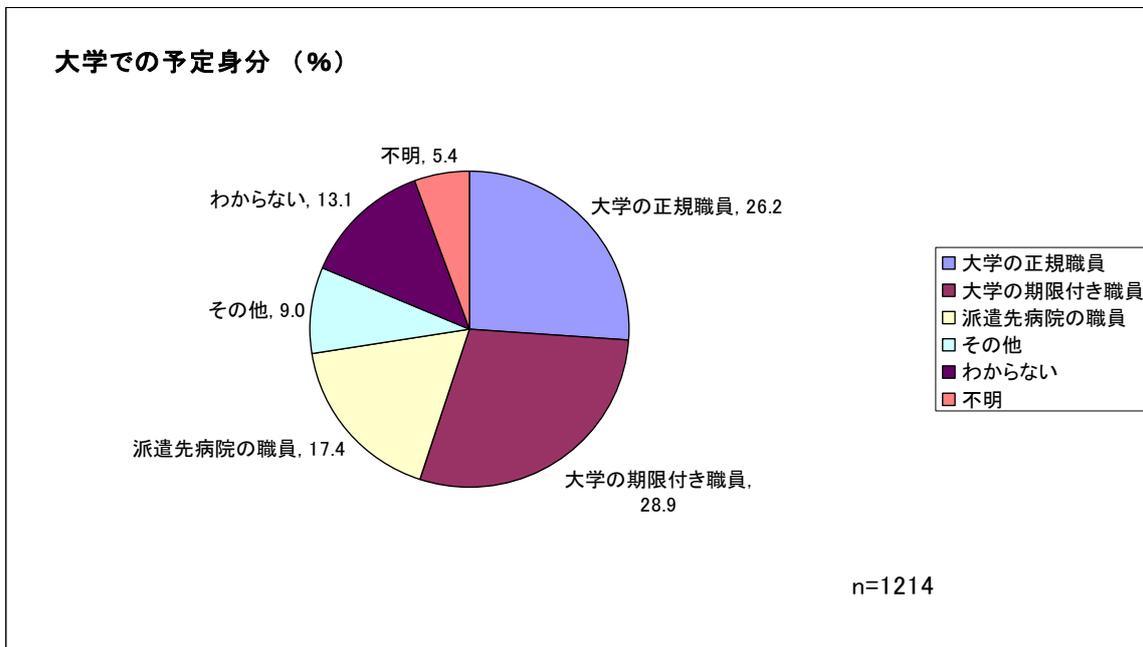
#### 問16 臨床研修修了後の予定

大学病院で勤務・研修を行う者は48.6%、市中病院で勤務・研修を行う者は38.2%であった。



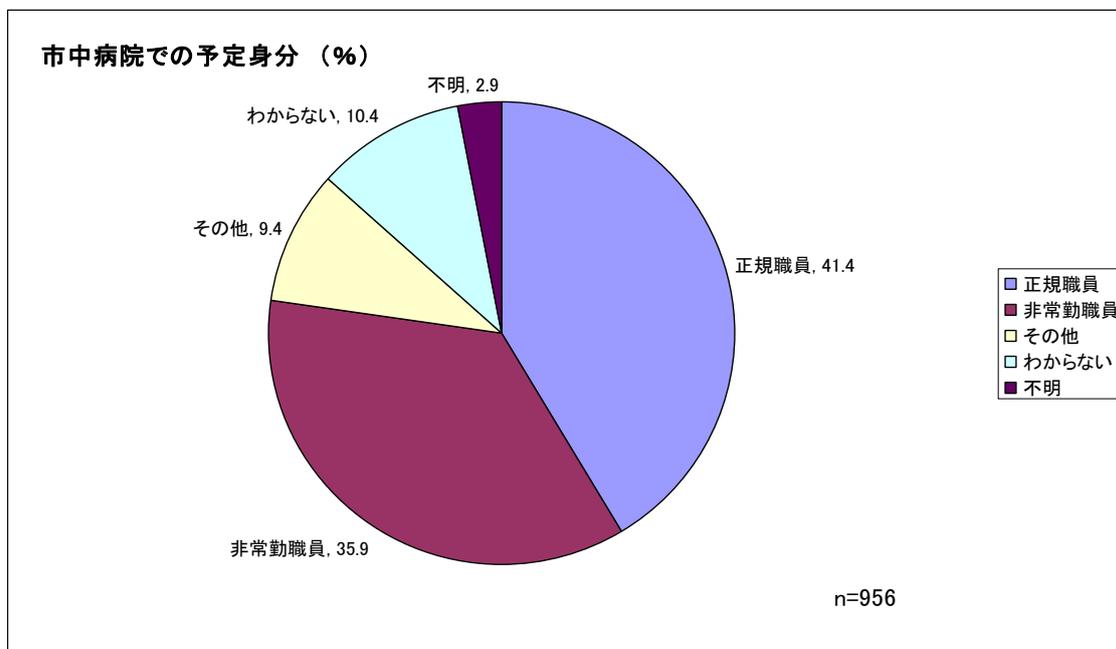
問16-1 大学で勤務・研修する場合の身分

期限付き職員が28.9%、正規職員が26.2%であった。



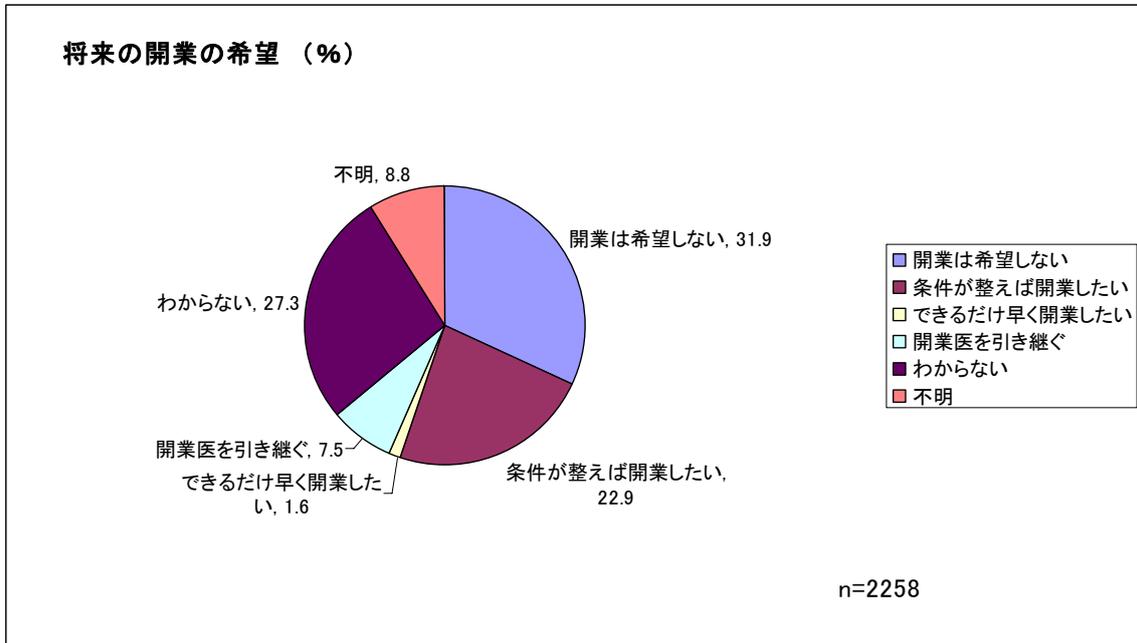
問16-2 市中病院で勤務・研修する場合の身分

正規職員が41.4%、非常勤職員が35.9%であった。



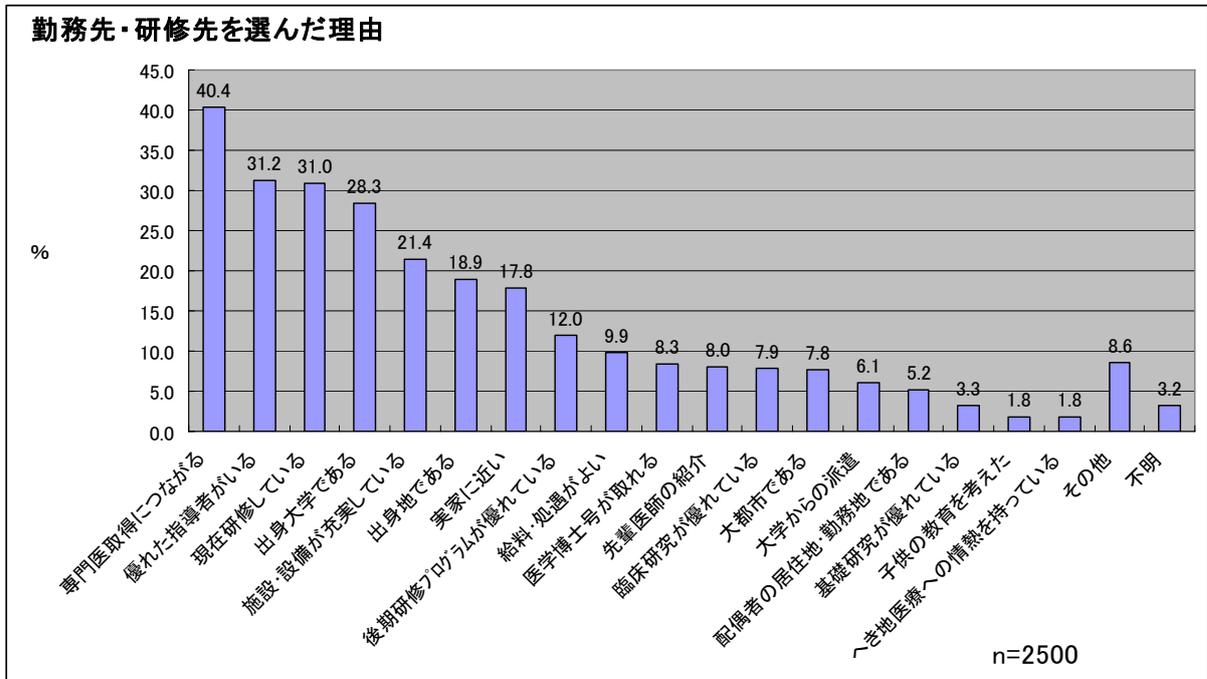
### 問16-3 将来の診療所開業の希望

将来の診療所の開業を希望しない者は31.9%、開業を希望する者は32.0%であった。



問17 臨床研修修了後の勤務先（または研修先）を決定した理由（複数回答）

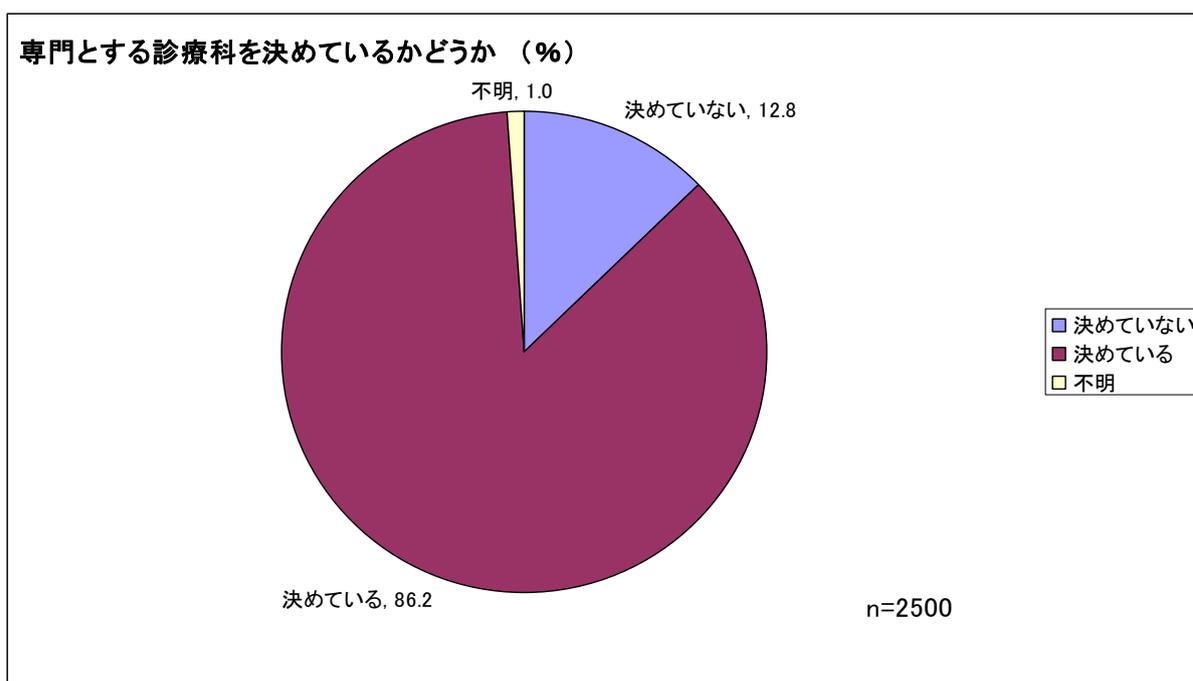
最も多かったのは、「専門医取得につながる」の40.4%。次いで、「優れた指導者がいる（31.2%）」、「現在研修している（31.0%）」であった。



[2] 専門としたい診療科について (問19)

問19 臨床研修修了後に専門とする診療科を決めているか。またその診療科。

86.2%が、臨床研修修了後に進む診療科を決めていた。



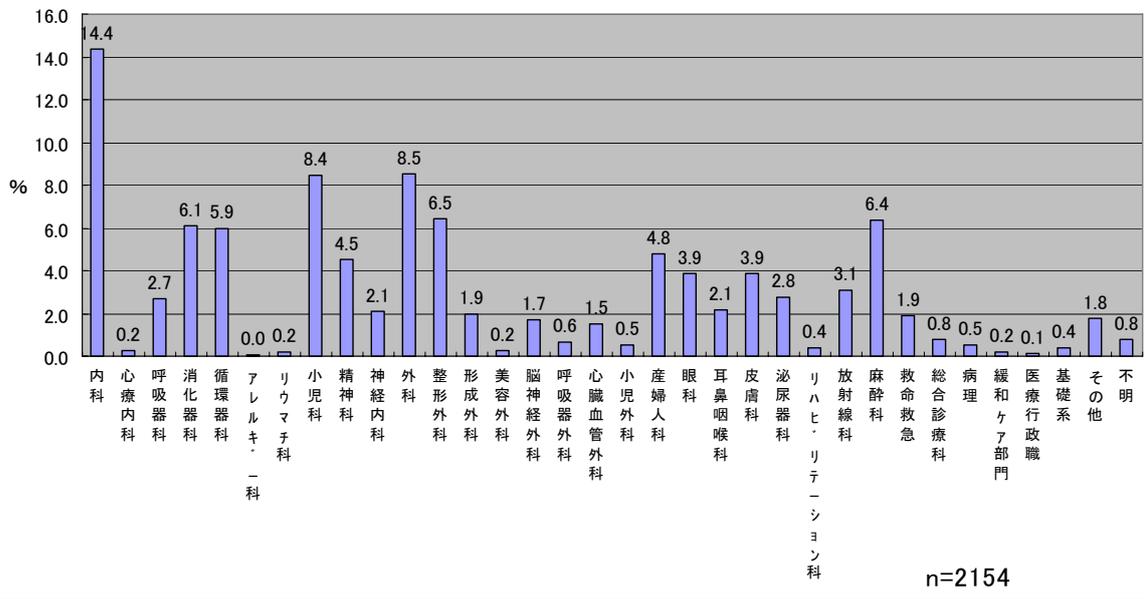
希望する診療科は最も多いのは、内科 310 人。続いて、外科 184 人、小児科 182 人。

整形外科 139 人、麻酔科は 137 人、産婦人科は 103 人。

眼科、皮膚科は 93 人、耳鼻咽喉科は 46 人。

診療科	人数(人)	割合(%)	診療科	人数(人)	割合(%)
内科	310	14.4%	救命救急	41	1.9%
外科	184	8.5%	脳神経外科	37	1.7%
小児科	182	8.4%	心臓血管外科	33	1.5%
整形外科	139	6.5%	総合診療科	17	0.8%
麻酔科	137	6.4%	呼吸器外科	14	0.6%
消化器科	132	6.1%	小児外科	11	0.5%
循環器科	128	5.9%	病理	11	0.5%
産婦人科	103	4.8%	リハビリテーション科	9	0.4%
精神科	98	4.5%	基礎系	8	0.4%
眼科	83	3.9%	心療内科	5	0.2%
皮膚科	83	3.9%	美容外科	5	0.2%
放射線科	66	3.1%	リウマチ科	4	0.2%
泌尿器科	60	2.8%	緩和ケア部門	4	0.2%
呼吸器科	58	2.7%	その他	42	1.9%
耳鼻咽喉科	46	2.1%	不明	17	0.8%
神経内科	45	2.1%	全体	2154	100.0%
形成外科	42	1.9%			

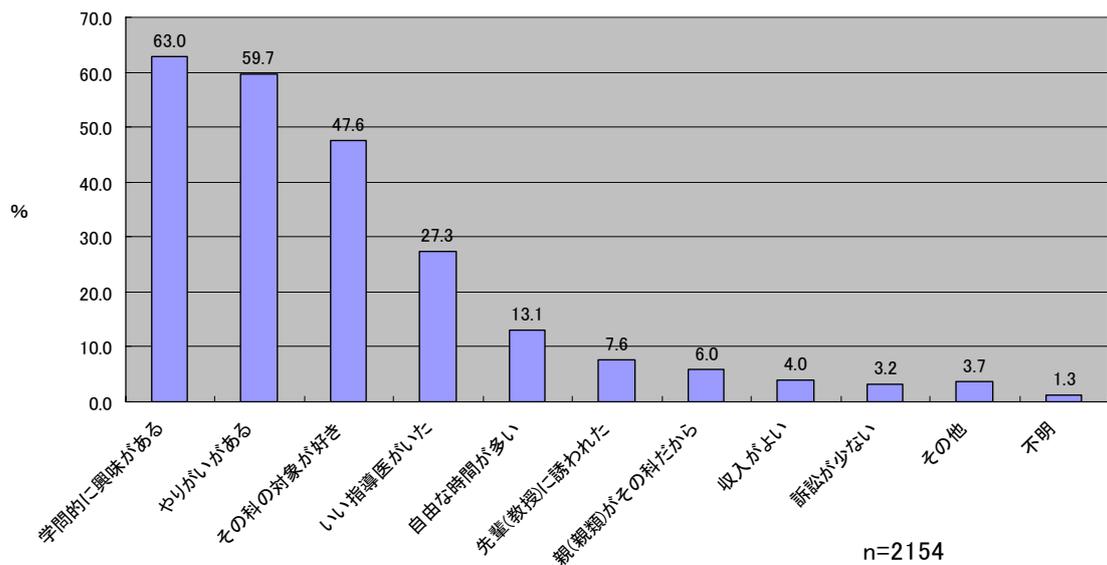
### 専門としたい診療科・割合



### 問19-1 診療科を選んだ理由（複数回答）

もっとも多いのは、「学問的に興味がある」の63.0%。次いで、「やりがいがある」(59.7%)、「その科の対象が好き」(47.6%)であった。

### 診療科を選んだ理由



## 診療科を選んだ理由

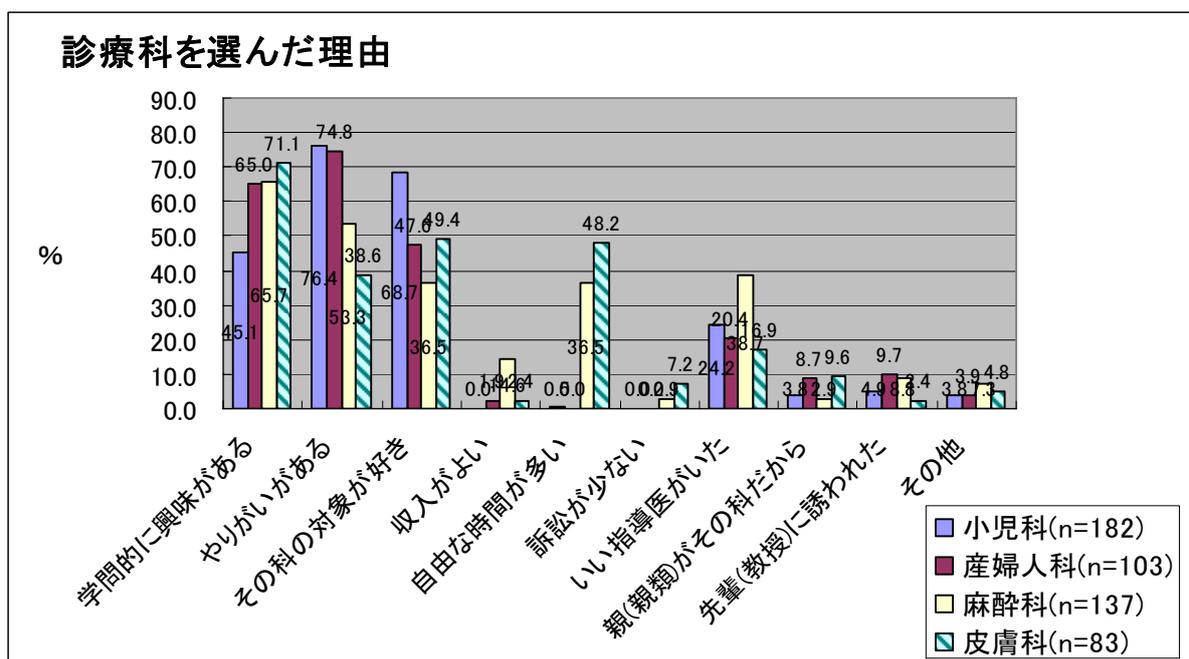
小児科、産婦人科、麻酔科、皮膚科について、その科を選んだ理由を集計した結果は以下の通り。

小児科を選んだ理由として、最も多いのは、「やりがいがある」の76.4%。

産科を選んだ理由として、最も多いのは、「やりがいがある」の74.8%

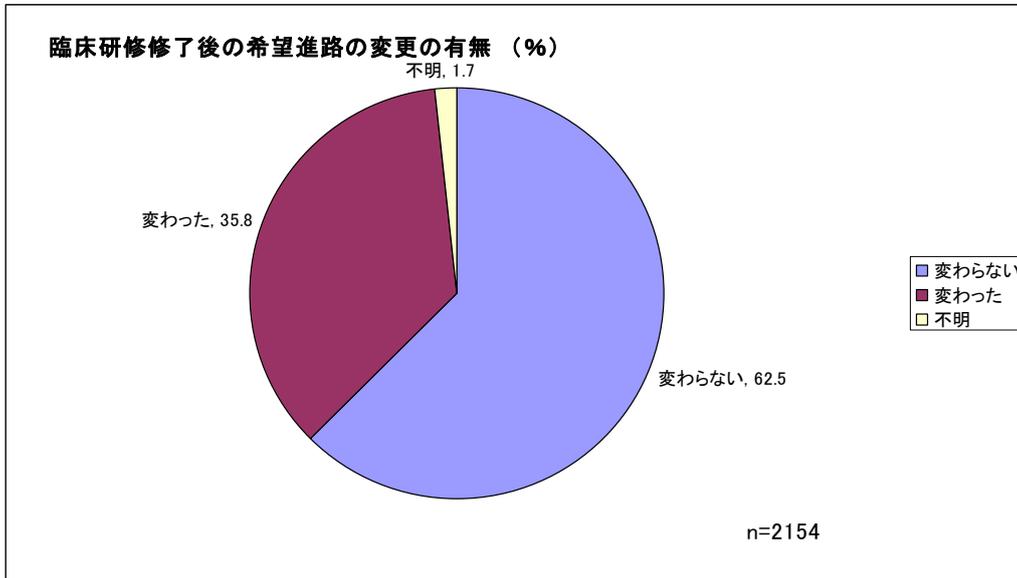
麻酔科を選んだ理由として、最も多いのは、「学問的に興味がある」の65.7%。

皮膚科を選んだ理由として、最も多いのは、「学問的に興味がある」の71.1%。



問19-2 臨床研修の前後で進みたい診療科が変わったか。

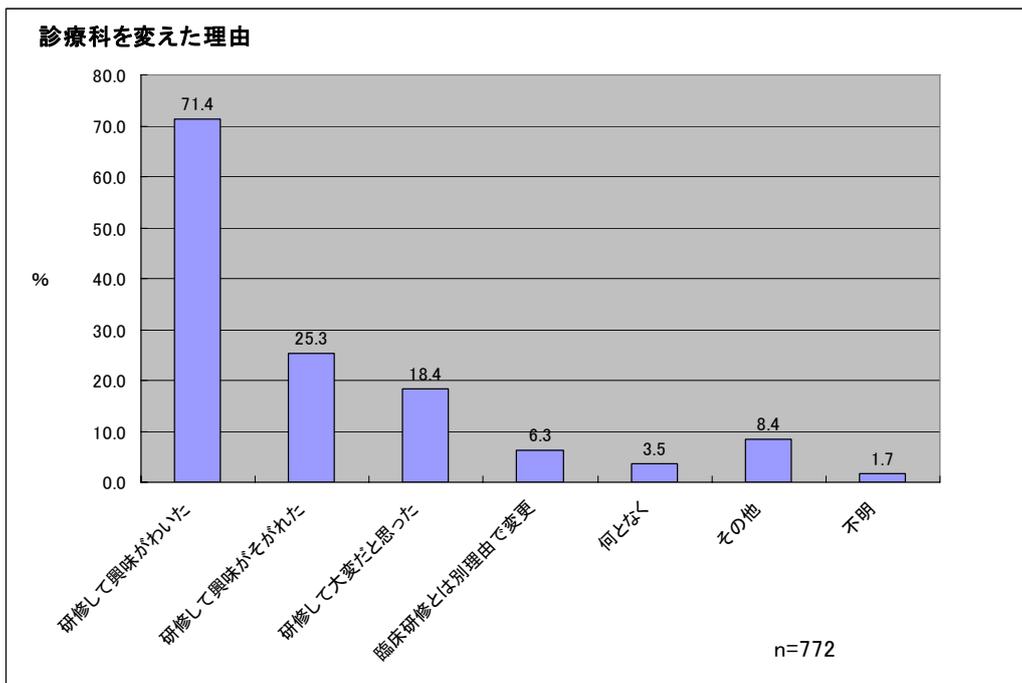
希望する診療科を決めている者のうち、臨床研修の前後で進みたい診療科を変えた者は35.8%であった。



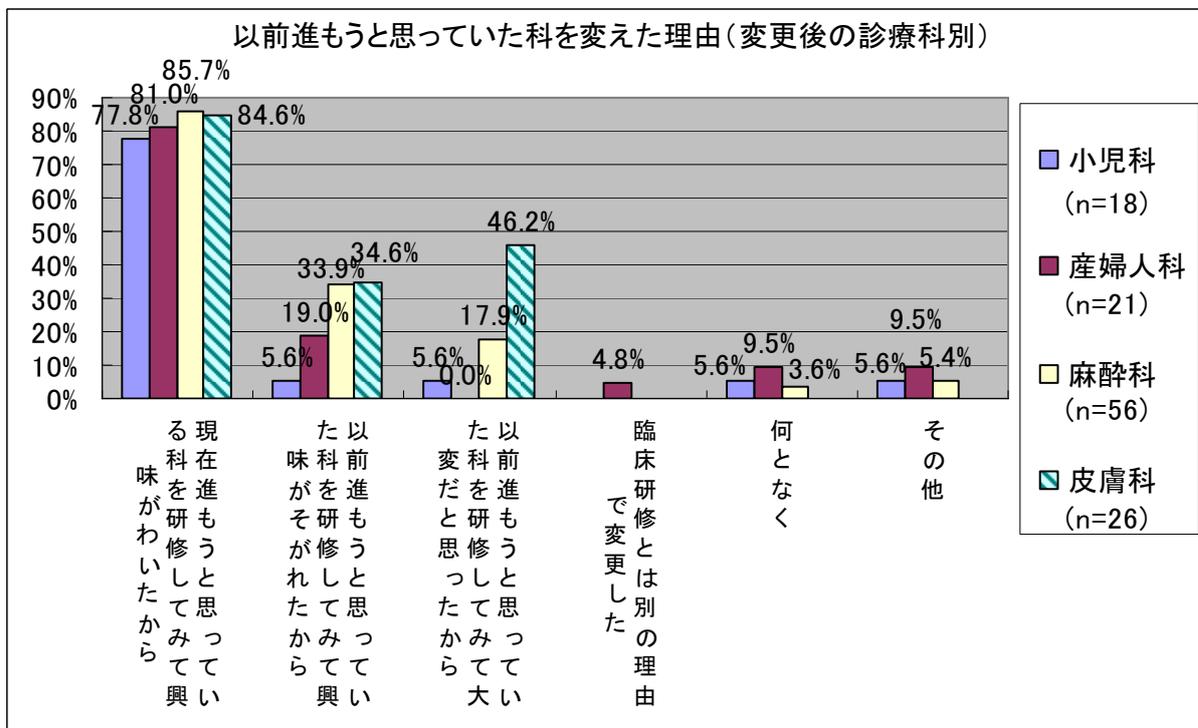
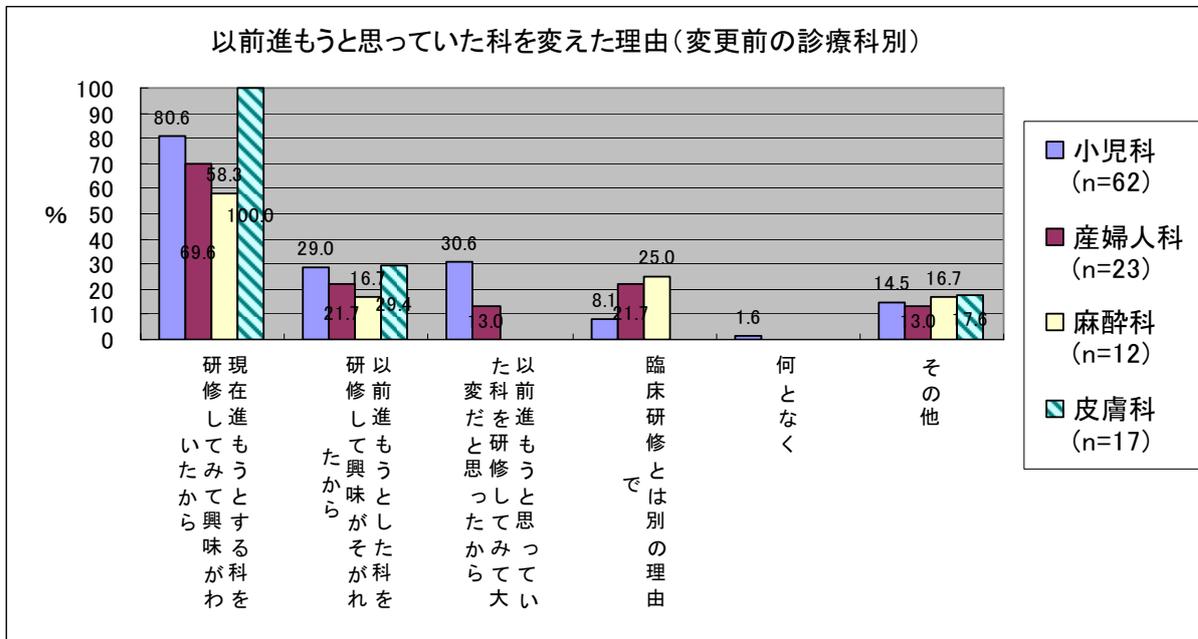
問19-2-2 臨床研修の前後で進みたい診療科を変えた理由

臨床研修の前後で進みたい診療科を変えた理由で最も多かったのは、「研修して興味がわいたから」で、71.4%であった。

「研修して大変だと思った」のは18.4%であった。

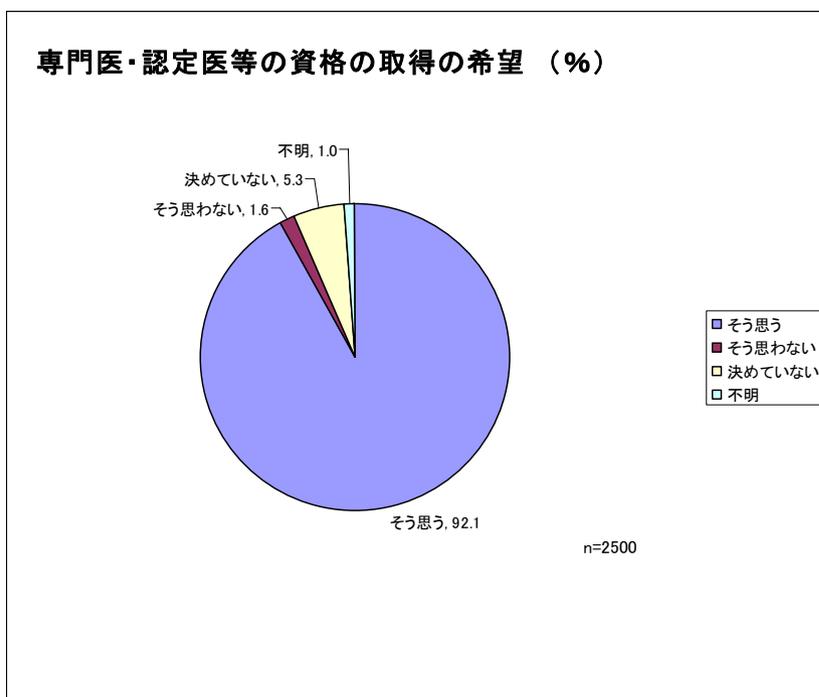


小児科、産婦人科、麻酔科、皮膚科について変更した理由を集計した結果は以下の通り。



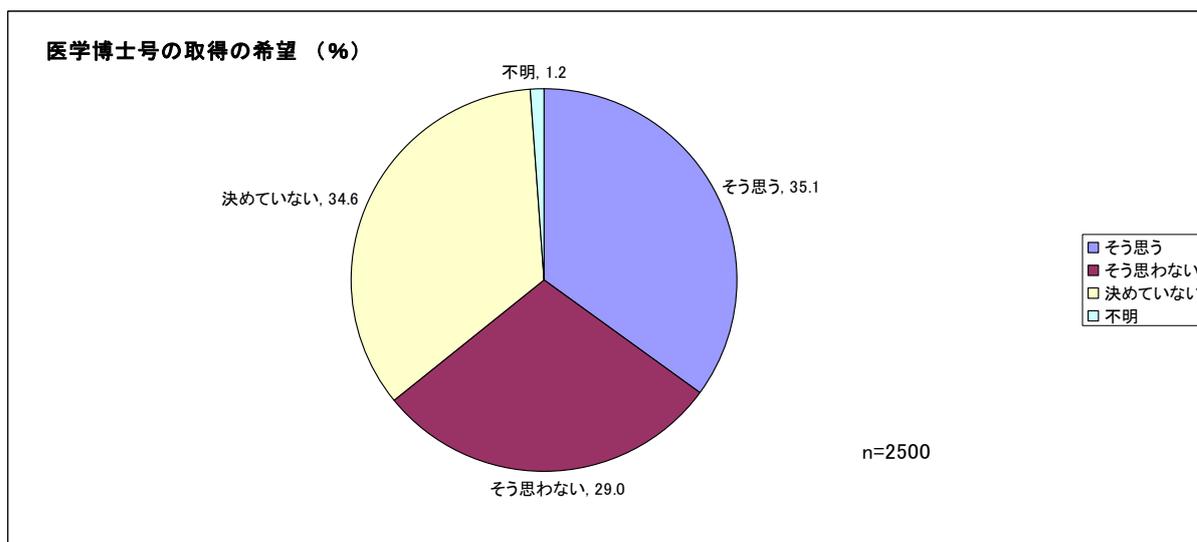
[3] 専門医等の取得について（問20～問21）  
問20 専門医・認定医等の資格の取得の希望

92.1%が取りたいと答えた。



問21 医学博士号の取得の希望

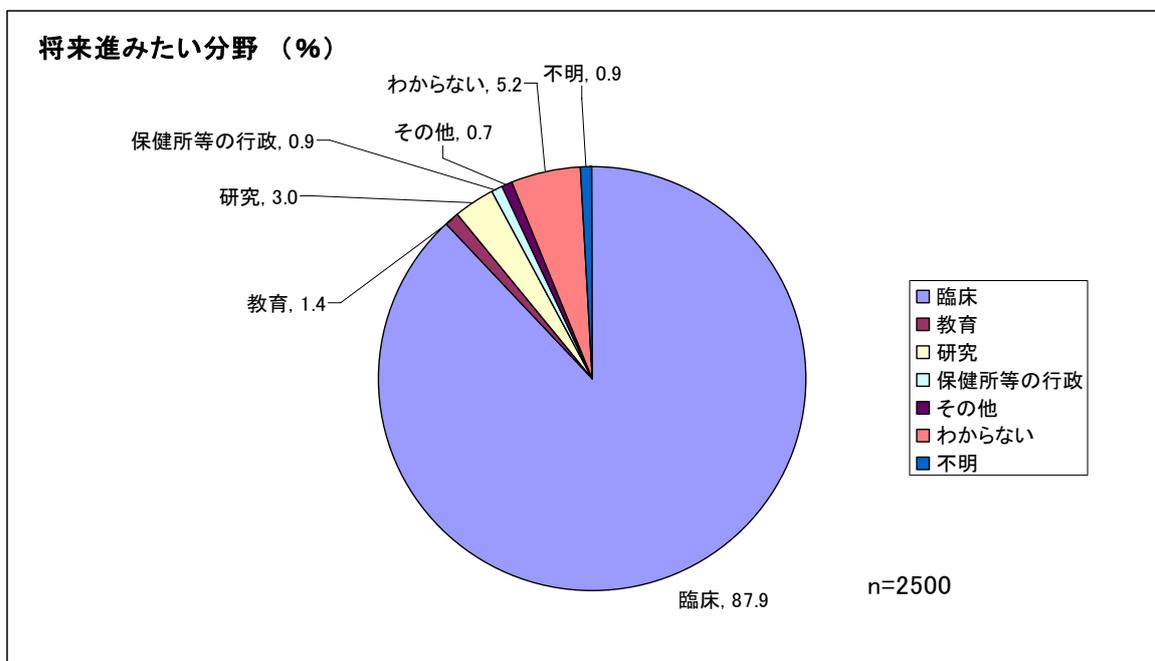
取りたいと思う者が35.1%、取りたいと思わない者が29.0%であった。



[4] 将来の進路について（問22）

問22 将来進みたい分野

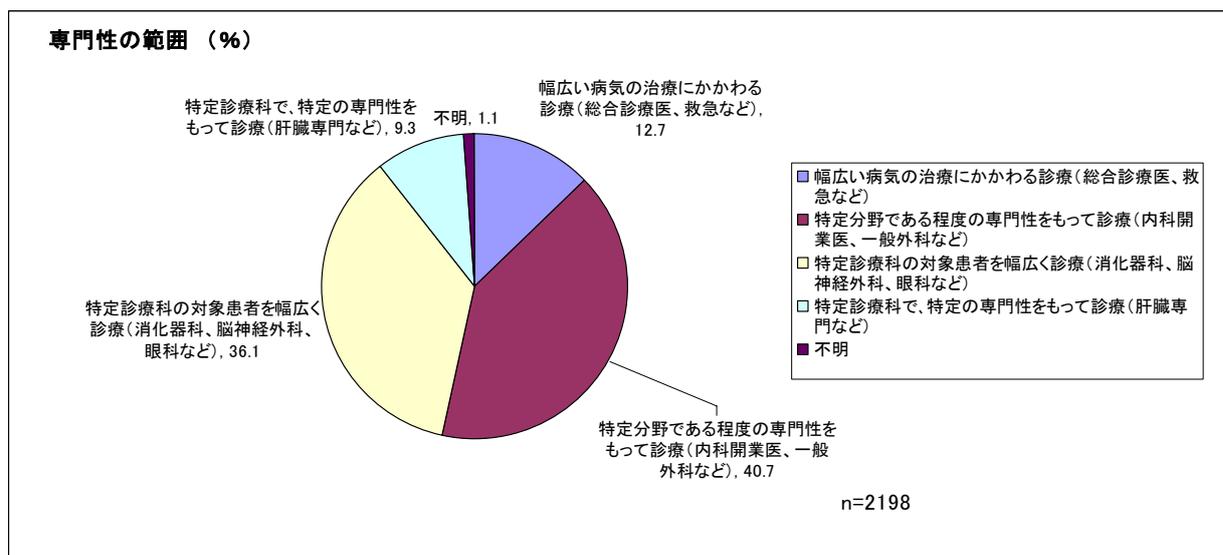
臨床に進みたい者が87.9%であった。



問22-1 専門性の範囲

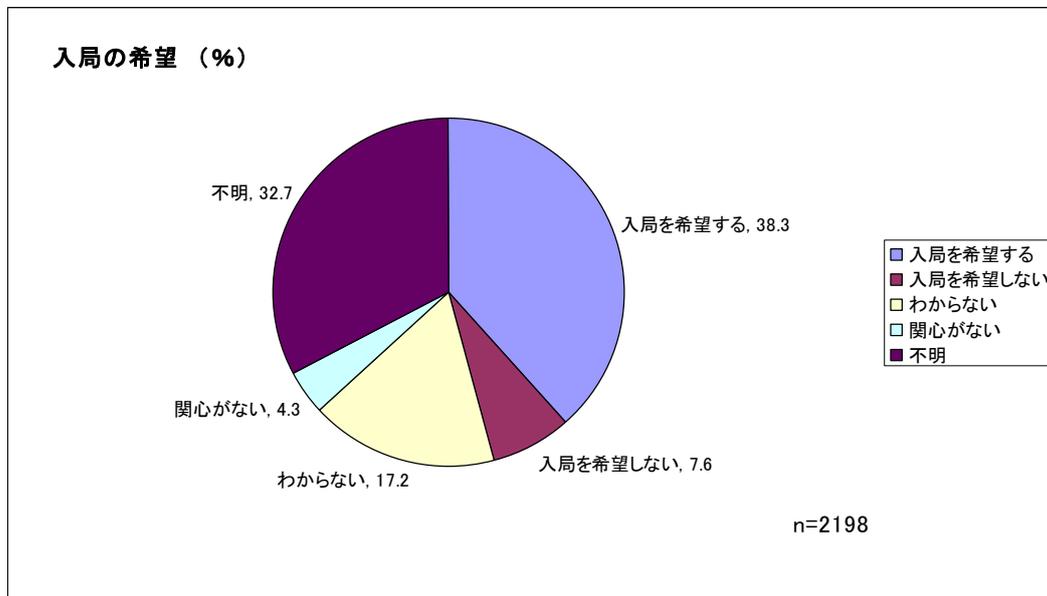
問22で臨床に進みたいと選んだ者に、専門性をどのようにしたいか尋ねた。

「幅広い病気の治療に係わりながらも、特定の分野で、ある程度の専門性を持って診療したい」が40.7%、「特定の診療科の対象患者を幅広く治療する医師として診療したい」が36.1%であった。



## 問22-2 大学の医局へ入る希望

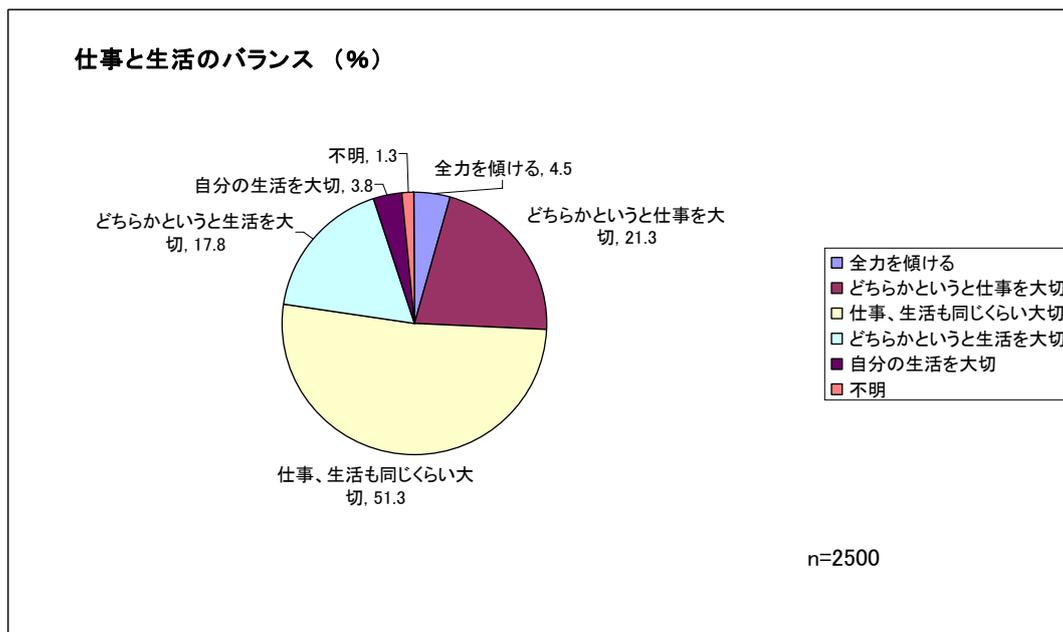
問22で臨床に進みたいと答えた者に、将来、大学の医局へ入る希望があるか尋ねた。「入局を希望する」が38.3%、「入局を希望しない」は7.6%だった。



## [5] 仕事と生活とのバランスについて (問23)

問23 将来、仕事と自分の生活のバランスをどのようにしたいと考えているか

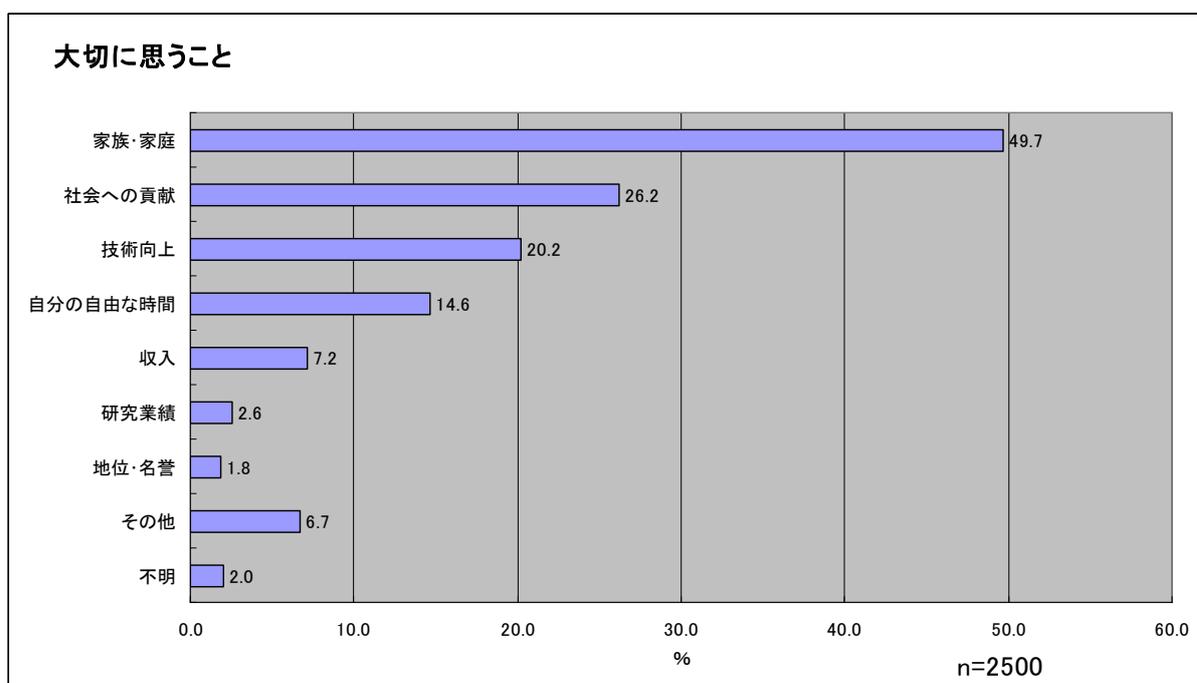
「仕事も自分の生活も同じくらい大切にする」が51.3%で、「自分の生活も大切にするが、どちらかという仕事のほうを大切にする」が21.3%、「仕事も大切にするが、どちらかという自分の生活のほうを大切にする」が17.8%であった。



[6] 大切に思うことについて（問24）

問24 最も大切に思うことは何か（複数回答として集計）

「家族・家庭」が最も多く、49.7%であった。ついで、「社会への貢献」が26.2%、「技術向上」が20.2%であった。

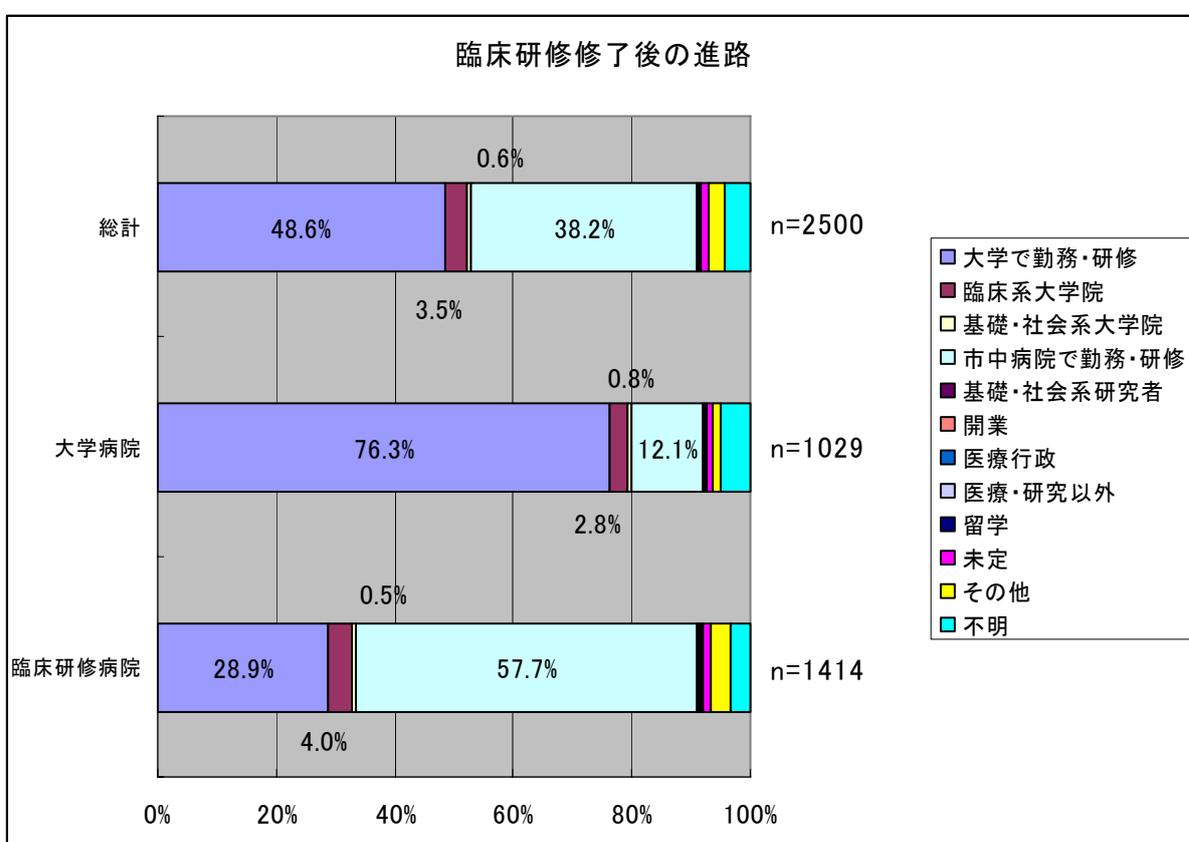


### 【3】研修医のプログラムを管理している病院の種類による集計

#### [1] 研修医のプログラムを管理している病院の種類別にみた臨床研修修了後の進路

大学病院で臨床研修を行った者では、研修終了後に大学で勤務・研修を行う者が76.3%であった一方、臨床研修病院で臨床研修を行った者では、28.9%であった。

一方で、大学病院で臨床研修を行った者では、研修終了後に市中病院で勤務・研修を行う者が12.1%であった一方、臨床研修病院で臨床研修をおこなった者では、57.7%であった。

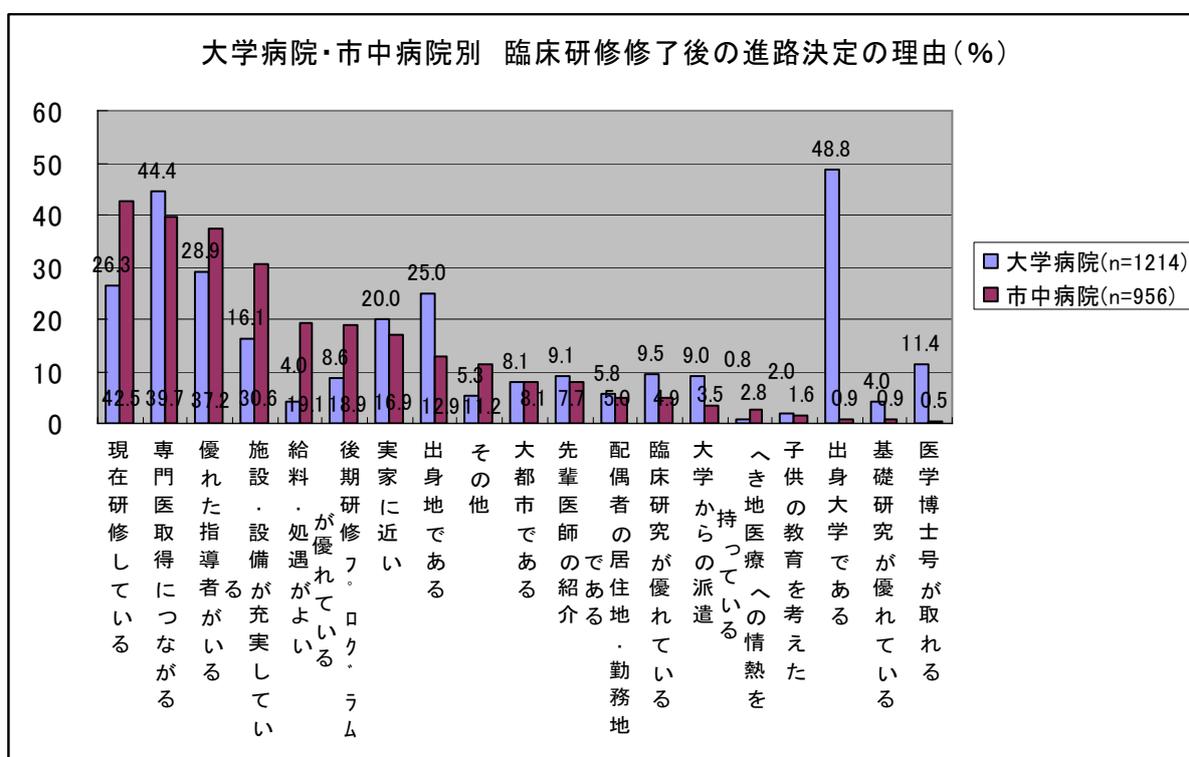


#### 【4】臨床研修修了後の進路別にみた集計

##### [1] 臨床研修修了後の進路を大学病院・市中病院で分けたときの勤務先・研修先の選択理由

大学病院を進路に選んだ理由は、「出身大学である」(48.8%)、「専門医取得につながる」(44.4%)が多かった。

市中病院を進路に選んだ理由は、「現在研修している」(42.5%)、「専門医取得につながる」(39.7%)が多かった。

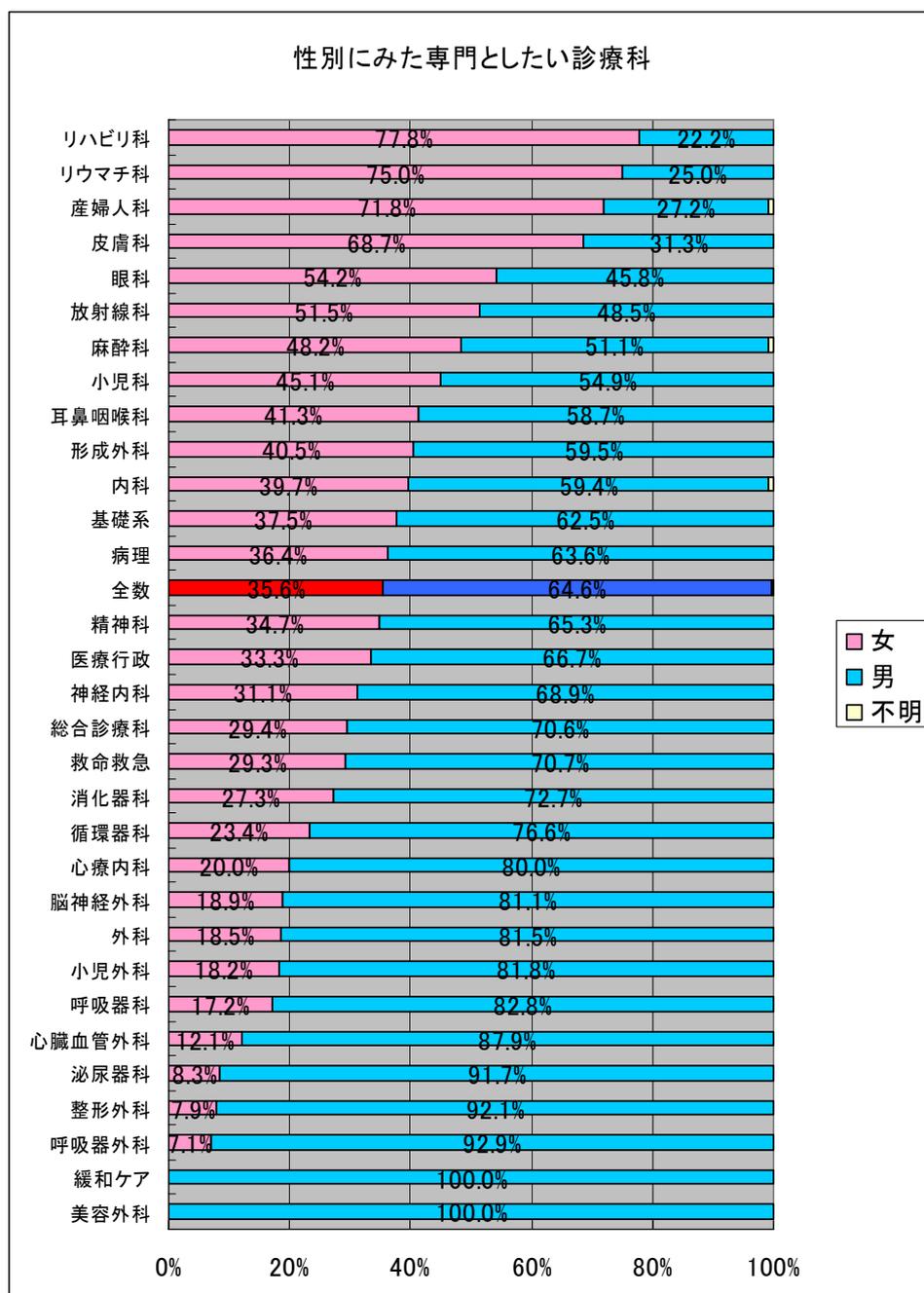


## 【5】性別による集計

### [1] 性別にみた専門としたい診療科

診療科の希望を性別に見ると、女性医師の割合が高いのは、リハビリテーション科（77.8% n=9）、リウマチ科（75.0% n=4）、産婦人科（71.8% n=103）であった。

女性医師の割合が低いのは、美容外科（0.0% n=5）、緩和ケア（0.0% n=4）であった。

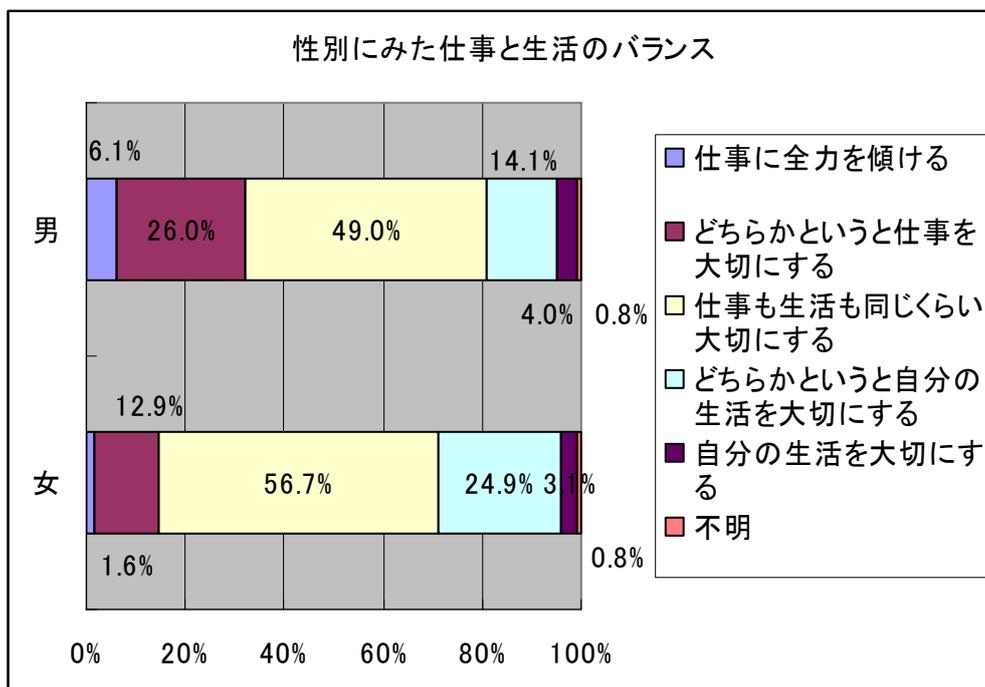


※全数は、問 19 で専門とする診療科を決めていると回答した者。

## [2] 性別にみた仕事と生活のバランス

仕事と生活のバランスを性別にみたところ、仕事を優先する（「仕事に全力を傾ける」、「どちらかという仕事を大切にする」の計）意見の割合は女性よりも男性が高かった（男性 対 女性＝32.1% 対 14.5%）。

一方で生活を優先する（「どちらかという自分の生活を大切にす」、「自分の生活を大切にす」の計）という意見は女性の方が男性よりも高かった。（男性 対 女性＝18.1% 対 28.0%）。



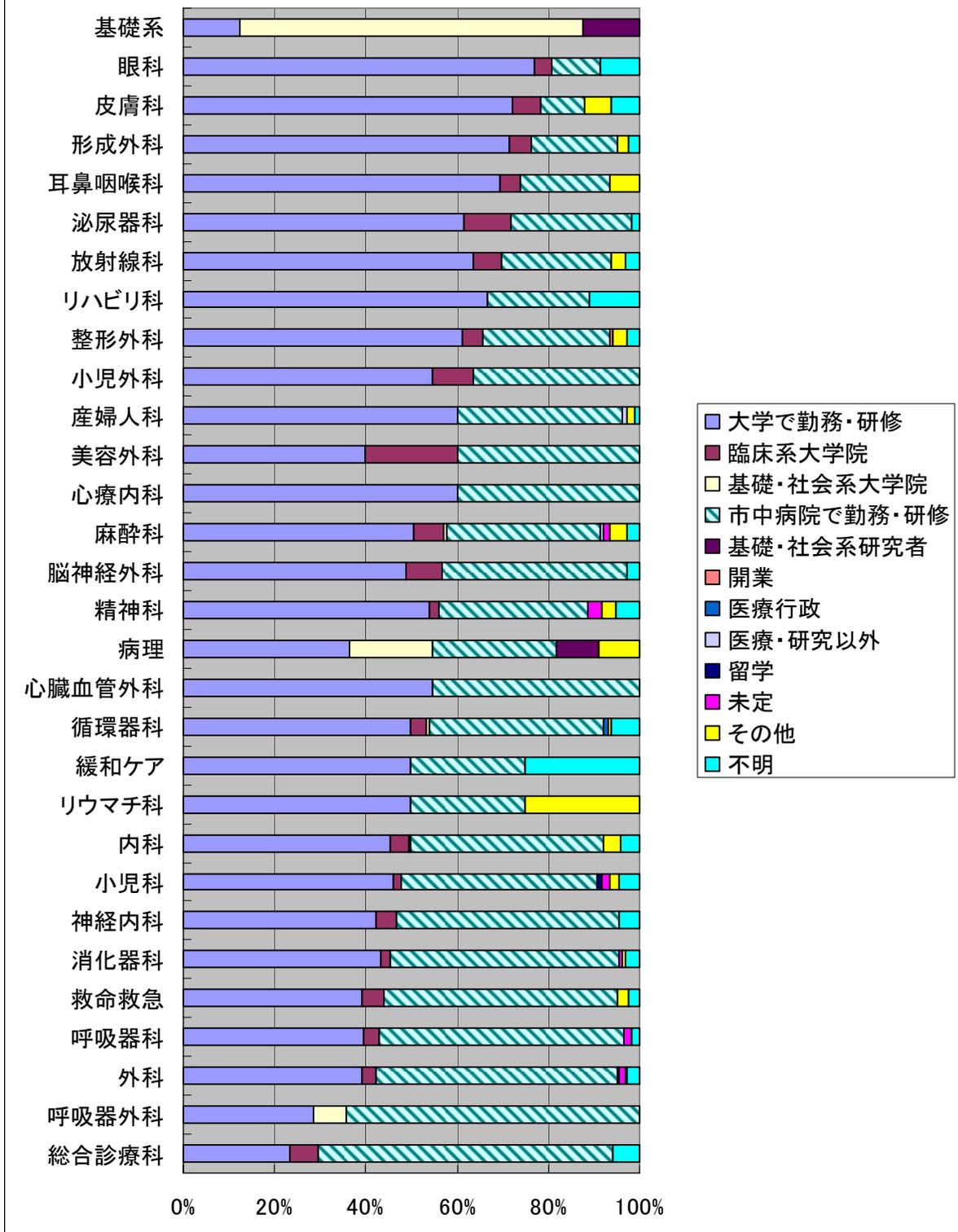
## 【6】専門としたい診療科別の集計

### [1] 専門としたい診療科別にみた臨床研修終了後の進路

臨床研修終了後の進路を診療科別にみると、眼科（80.7%）皮膚科（78.3%）、耳鼻科（73.9%）といった診療科では大学で研修を行う割合が高い（大学での勤務・研修には、大学院への進学も含む）。

一方、総合診療科（64.7%）、呼吸器外科（64.3%）では、市中病院で勤務・研修を行う割合が高い。このほか外科では、52.7%、小児科では42.9%が市中病院で研修を行うと回答している。

診療科別臨床研修修了後の進路



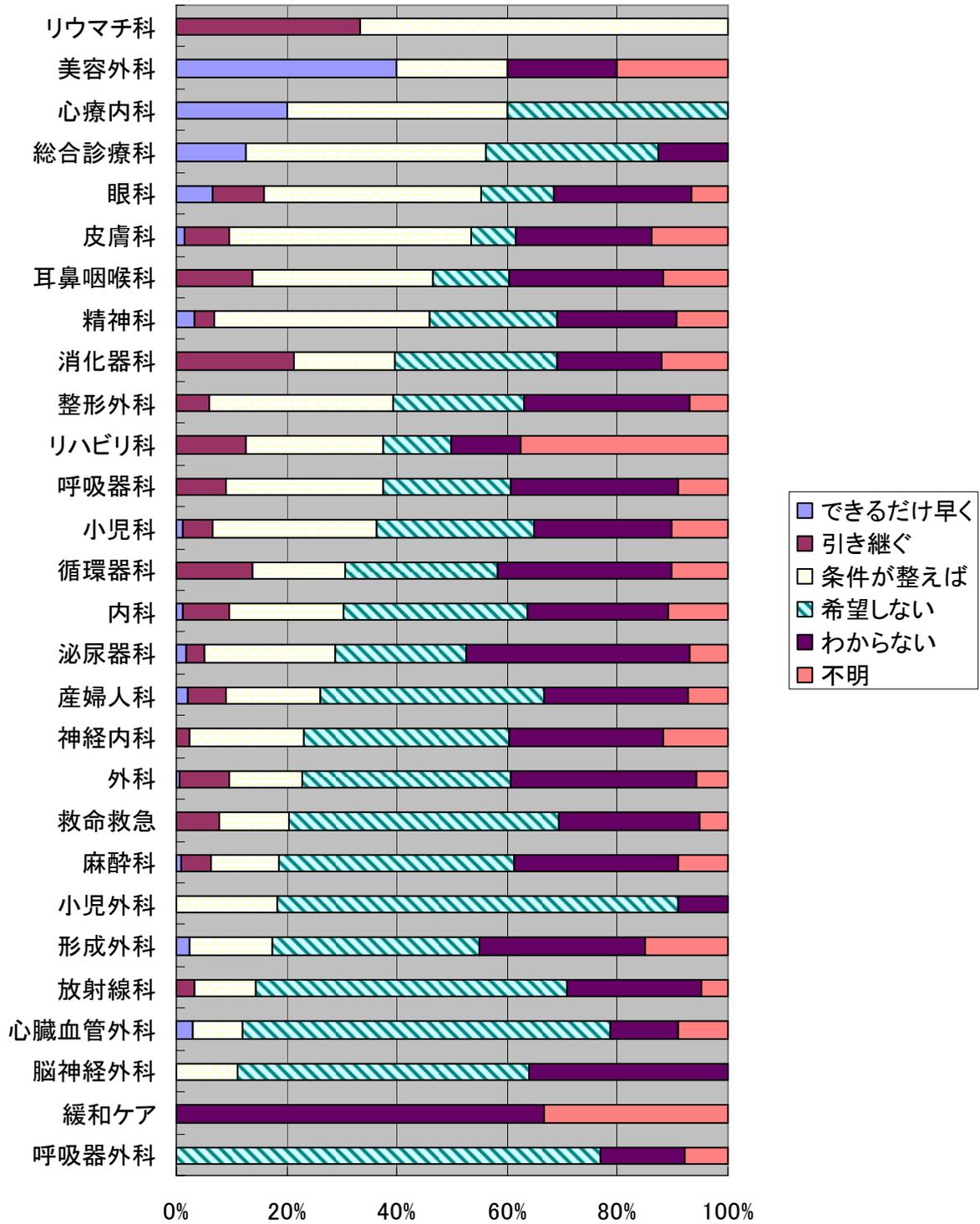
※大学で勤務・研修を行う（大学院への進学を含む）割合順。

## [2] 専門としたい診療科別にみた診療所の開業の希望

開業の希望を専門としたい診療科別に見ると、開業の希望がある者（「できるだけ早く」、「引き継ぐ」、「条件が整えば」、の計）は、リウマチ科（100.0% n=4）、美容外科（60.0% n=5）、心療内科（60.0% n=5）が多かった。さらに、総合診療科（56.3% n=16）眼科（55.3% n=76）、皮膚科（53.4% n=73）、耳鼻咽喉科（46.5% n=43）が続いている。

一方、呼吸器外科（n=13）、緩和ケア（n=3）では開業の希望がある者はいなかった。

### 診療科別にみた開業の希望



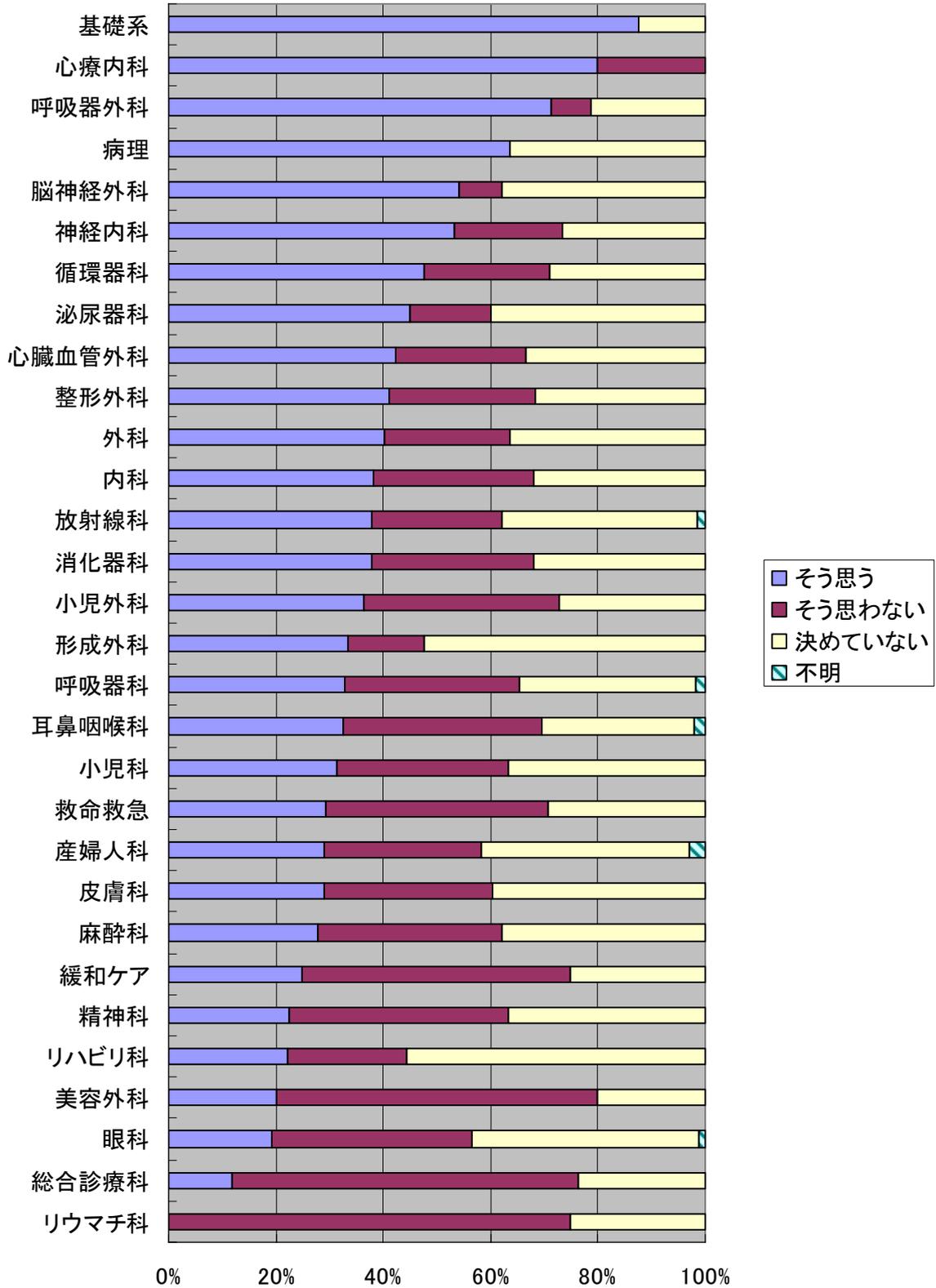
※開業を希望する割合（「できるだけ早く」、「引き継ぐ」、「条件が整えば」の計）順

### [3] 専門としたい診療科別にみた医学博士号取得の希望

医学博士号を取りたいと思うかを診療科別に見たところ、希望する割合が高かったのは基礎系（87.5% n=8）、心療内科（80.0% n=5）、呼吸器外科（71.4% n=14）であった。

希望する割合が低かったのは、リウマチ科（0.0% n=4）、総合診療科（11.8% n=17）、眼科（19.3% n=83）であった。

診療科別にみた医学博士号取得の希望

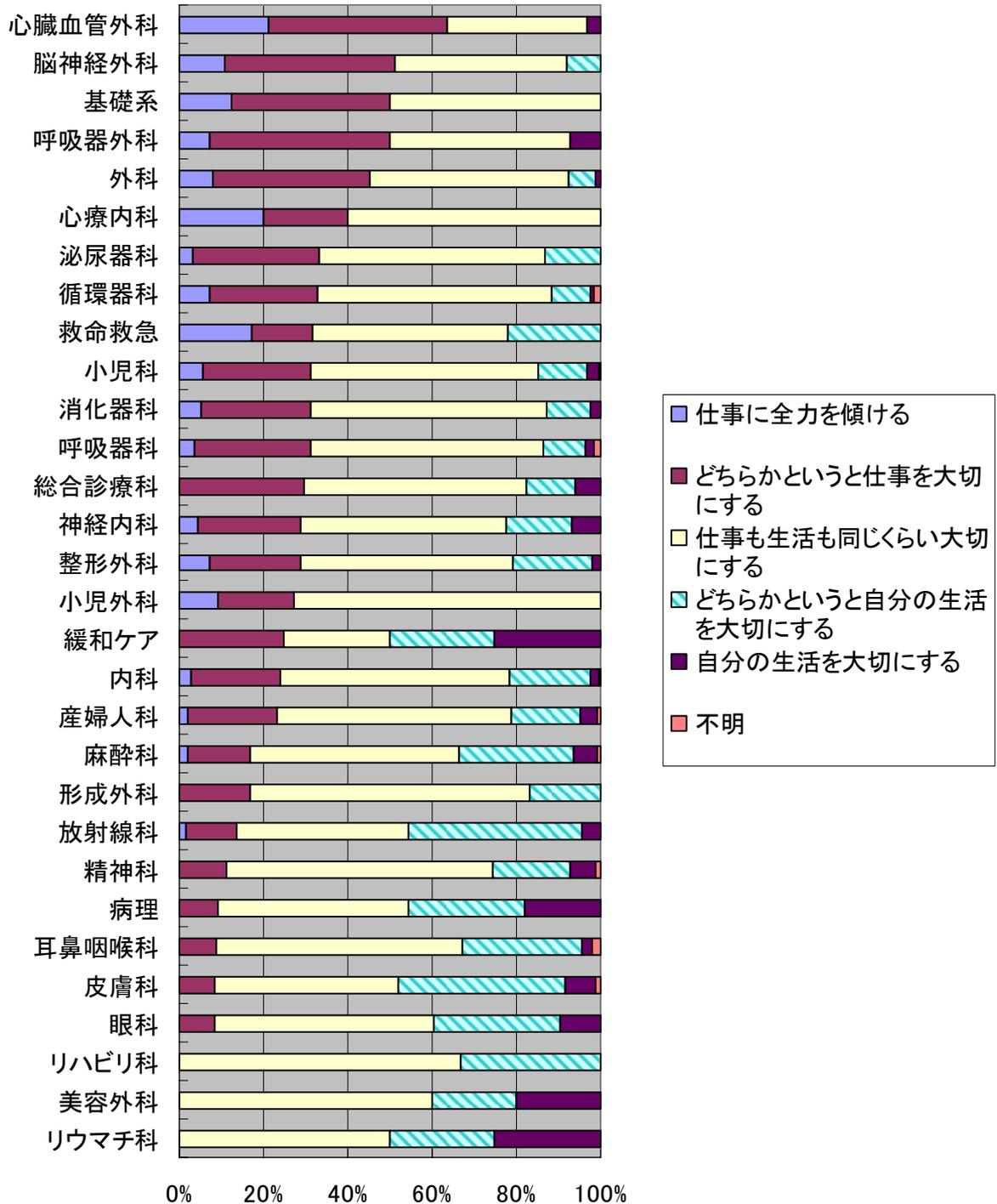


#### [4] 診療科別仕事と生活のバランス

仕事と生活のバランスをどう思うかを診療科別にみたところ、仕事を優先する（「仕事に全力を傾ける」という意見を含む）意見の割合が高かったのは、心臓血管外科（63.6% n=33）、脳神経外科（51.4% n=37）、基礎系（50.0% n=8）であった。

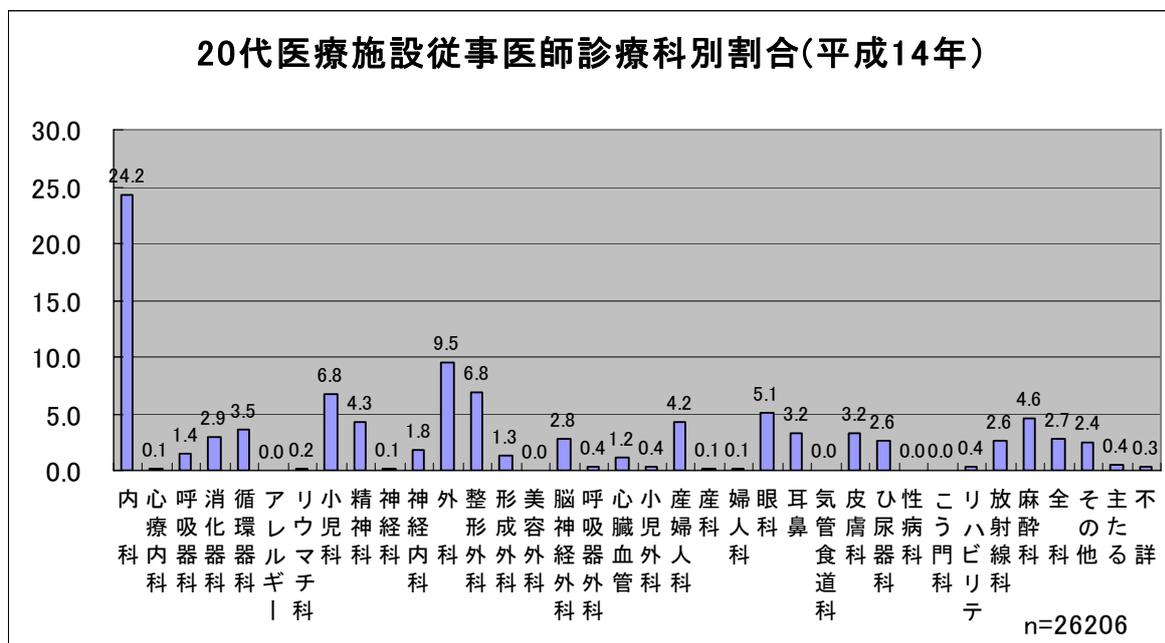
一方、生活を優先する（「どちらかという自分の生活のほうを大切にする」、「自分の生活を大切にする」の計）という意見の割合が高かったのは、リウマチ科（50.0% n=4）、緩和ケア（50.0% n=4）、皮膚科（47.0% n=83）であった。

### 診療科別仕事と生活のバランス



※仕事を大切にする（「仕事に全力を傾ける」を含む）割合の高い順

(参考)



厚生労働省大臣官房統計情報部 平成14年医師・歯科医師・薬剤師調査

※ 平成16年度より開始した医師臨床研修制度の影響を除くため、平成14年調査結果を提示した。

## 平成17年度 臨床研修に関する調査

厚生労働科学研究班：「新医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」

＜主任研究者：福井次矢（聖路加国際病院院長）＞

同：「卒前教育から生涯教育を通じた医師教育の在り方に関する研究」

＜主任研究者：篠崎英夫（国立保健医療科学院院長）＞

### 【記入上の注意】

1. この調査票は2年目の研修医の方がご記入ください。
2. 調査票は、同封の封筒に入れ、**封をしたのち、病院に提出**してください。ご回答いただきました内容については、次のように取り扱います。
  - ① 調査目的以外には使用いたしません。
  - ② 統計的に処理し、個人名等が特定できないように配慮します。
  - ③ 自由記述の内容も、個々の回答者が特定されないよう配慮し、データ化します。
  - ④ 調査の拒否や、調査項目の一部への回答拒否があっても、そのことで不利益が生ずることはありません。
  - ⑤ 調査結果は、報告書として公表されます。

なお、調査内容についてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

### ＜アンケート内容に関する問い合わせ先＞

〒100-8916

東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2 厚生労働省 医政局 医事課 医師臨床研修推進室

TEL 03-5253-1111(内線 2568)、03-3595-2196(夜間直通) FAX 03-3591-9072

※ 以下の項目について、あてはまるものを○で囲む、あるいは（ ）内にご回答ください

## I. あなたの属性について

性別	1 男性	2 女性	実家の現在の所在地	都道府県
年齢	歳		出身大学	大学

## II. 臨床研修について

### 【病院の属性について】

問1 あなたの研修プログラムを管理している病院の名称

問2 あなたの研修プログラムを管理している病院はどれに当たりますか

- |          |             |             |
|----------|-------------|-------------|
| 1 大学附属病院 | 2 単独型臨床研修病院 | 3 管理型臨床研修病院 |
|----------|-------------|-------------|

問3 研修プログラムを管理している病院の所在地

都道府県

問4 研修プログラムを管理している病院の規模（病床数）

- |                 |                 |                 |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1 100床未満        | 3 300床以上 500床未満 | 5 700床以上 900床未満 |
| 2 100床以上 300床未満 | 4 500床以上 700床未満 | 6 900床以上        |

**【研修期間の内訳について】**

問5 2年間の臨床研修のうち、それぞれの研修期間を教えてください

\* 大学附属病院が協力施設になっているときは“1”に記入してください

1 大学附属病院	ヶ月
2 単独型・管理型臨床研修病院	ヶ月
3 協力型臨床研修病院	ヶ月
4 研修協力施設	ヶ月

問6 2年間の臨床研修のうち、それぞれの研修期間をお答えください

問6 2年間の臨床研修		問6-1 「地域保健・医療」ではどのような施設で研修しましたか	
1 内科系	ヶ月	1 保健所	ヶ月
2 外科系	ヶ月	2 へき地・離島診療所	ヶ月
3 救急部門	ヶ月	3 中小病院・診療所	ヶ月
4 小児科	ヶ月	4 介護老人保健施設	ヶ月
5 産婦人科	ヶ月	5 社会福祉施設	ヶ月
6 精神科	ヶ月	6 赤十字社血液センター	ヶ月
7 地域保健・医療	ヶ月	7 各種検診・検診の実施施設	ヶ月
8 その他	ヶ月	8 その他	ヶ月

問6-2 問6で“8”を選んだ場合、内容をお答えください

1 整形外科	ヶ月	8 泌尿器科	ヶ月
2 形成外科	ヶ月	9 リハビリテーション（理学療法）科	ヶ月
3 脳神経外科	ヶ月	10 放射線科	ヶ月
4 小児外科	ヶ月	11 病理	ヶ月
5 眼科	ヶ月	12 緩和ケア部門	ヶ月
6 耳鼻咽喉科	ヶ月	13 その他（	ヶ月
7 皮膚科	ヶ月		

**【研修中の時間外勤務について】**

問7 研修中の日直・当直の回数は平均して月にどのくらいですか

回
---

問8 研修中の自宅待機（またはオンコール当番）の回数は平均して月にどのくらいですか

回
---

**【受持症例について】**

問9 2年間の臨床研修で担当した入院患者数についてお尋ねします

問9-1 平均して、1日当たり何人ほどの入院患者を担当していましたか

人
---



問 12 臨床研修の到達目標に関して、この研修でどのくらい達成されたと思いますか（○印は1つ）

- |                             |
|-----------------------------|
| 1 十分達成されたと思う                |
| 2 ほぼ達成されたと思う                |
| 3 あまり達成されなかったと思う → 問 12-1 へ |
| 4 達成されなかったと思う               |
| 5 わからない                     |

問 12-1 問 12 で “3” または “4” と回答した場合、達成するために必要な課題は何ですか

(あてはまるもの全てに○印)

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 各科の研修期間を長くすること | 7 プライマリ・ケアを充実させる |
| 2 指導医をよくすること     | 8 回る科を少なくする      |
| 3 本人の努力          | 9 雑用を減らす         |
| 4 十分な症例数         | 10 コ・メディカルの協力    |
| 5 手技をやらせてもらう     | 11 その他 ( )       |
| 6 科の選択を自由にする     |                  |

問 13 あなたが研修を受けている病院の処遇・待遇に満足していますか

- |                     |                      |         |
|---------------------|----------------------|---------|
| 1 満足している → 問 13-1 へ | 2 満足していない → 問 13-2 へ | 3 わからない |
|---------------------|----------------------|---------|

問 13-1 問 13 で “1” と回答した場合、その理由は何ですか（あてはまるもの全てに○印）

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1 給料・手当が良い  | 5 研修医専用の部屋がある  |
| 2 住宅環境が良い   | 6 学会や研究会に行きやすい |
| 3 IT環境がよい   | 7 その他 ( )      |
| 4 休暇が充実している |                |

問 13-2 問 13 で “2” と回答した場合、その理由は何ですか（あてはまるもの全てに○印）

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1 給料・手当が安い         | 5 研修医専用の部屋がない  |
| 2 住宅環境が良くない        | 6 学会や研究会に行きにくい |
| 3 IT環境が悪い          | 7 その他 ( )      |
| 4 勤務時間が長い・休暇が取りづらい |                |

### 【説明との異同】

問 14 説明会又は面接時に説明された処遇・待遇と現在の処遇・待遇は同じですか

- |                      |      |                      |         |
|----------------------|------|----------------------|---------|
| 1 現在の方がよい → 問 14-1 へ | 2 同じ | 3 現在の方が悪い → 問 14-2 へ | 4 わからない |
|----------------------|------|----------------------|---------|

問 14-1 問 14 で “1” と回答した場合、具体的にはどのような違いがありましたか

(あてはまるもの全てに○印)

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 給料・手当が良い | 4 勤務時間が適当 |
| 2 住宅環境が良い  | 5 その他 ( ) |
| 3 休暇が取れる   |           |

問 14-2 問 14 で “3” と回答した場合、具体的にはどのような違いがありましたか

(あてはまるもの全てに○印)

1 給料・手当が悪い	4 勤務時間が長い
2 住宅環境が悪い	5 勤務時間が短い
3 休暇が取れない	6 その他 ( )

### 【相談体制】

問 15 研修を受けるうえで何か問題が生じた場合に誰に相談していますか

(あてはまるもの全てに○印)

1 研修管理委員会・委員長	6 看護職（師長など）
2 プログラム責任者	7 研修医（同僚・先輩）
3 指導医	8 その他 ( )
4 上級医（指導医を除く）	9 相談相手がいない
5 専属又は兼務の研修医相談担当者	10 相談しない

## Ⅲ. 臨床研修後のことについて

### 【研修後の進路について】

問 16 臨床研修修了後の予定はどれですか

1 現在、研修をしている大学に在籍し、その大学または医局が紹介する病院で勤務・研修する	→問 16-1, 3 へ
2 現在、研修をしているのは別の大学に在籍し、その大学または医局が紹介する病院で勤務・研修する	→問 16-1, 3 へ
3 現在、研修をしている市中病院で引き続き勤務・研修する	→問 16-2, 3 へ
4 現在、研修をしているのは別の市中病院で勤務・研修する	→問 16-2, 3 へ
5 臨床系大学院に進学する	→問 16-3 へ
6 基礎・社会医学系大学院に進学する	
7 基礎・社会医学系研究者（大学院生をのぞく）になる	
8 開業する（開業医を引き継ぐ場合も含む）	
9 保健所等、医療行政の仕事につく	
10 医療・研究以外の仕事につく（具体的に	)
11 海外に勤務・留学する	
12 まだ決まっていない	
13 その他 (	)

問 16-1 問 16 で “1” または “2” と回答した場合、身分はどれになる予定ですか

1 大学の正規職員	4 その他 ( )
2 大学の期限付き職員	5 わからない
3 派遣先病院の職員	

問 16-2 問 16 で “3” または “4” と回答した場合、身分はどれになる予定ですか

1 正規職員	3 その他 ( )
2 非常勤職員	4 わからない



問 19-1 問 19 で“2 (「決めている」)”と回答した場合、その診療科を選んだ理由はなぜですか (あてはまるもの全てに○印)

1 学問的に興味があるから	6 訴訟が少ないから
2 やりがいがあるから	7 いい指導医がいたから
3 その科の対象が好きだから	8 親や親類がその科だから
4 収入がよいから	9 先輩や教授に誘われたから
5 自由な時間が多いから	10 その他 ( )

問 19-2 問 19 で“2 (「決めている」)”と回答した場合、その診療科は臨床研修を受ける前後で変わりましたか

1 変わらない	2 変わった → 問 19-2-1, 2 へ
---------	------------------------

問 19-2-1 問 19-2 で“2 (「変わった」)”と回答した場合、変更する前はどの診療科を考えていましたか。問 19 の診療科の中から選んで番号を記入してください

* 問 19 の番号(診療科)を記入
--------------------

問 19-2-2 問 19-2 で“2 (「変わった」)”と回答した場合、その理由はなんですか (あてはまるもの全てに○印)

1 現在進もうと思っている科を研修してみて興味がわいたから
2 以前進もうと思っていた科を研修してみて興味がそがれたから
3 以前進もうと思っていた科を研修してみて大変だと思ったから
4 臨床研修とは別の理由で変更した (具体的に )
5 何となく
6 その他 ( )

### 【専門医等の取得について】

問 20 あなたは専門医・認定医の資格を取りたいと思いますか

1 そう思う	2 そう思わない	3 決めていない
--------	----------	----------

問 21 あなたは医学博士号を取りたいと思いますか

1 そう思う	2 そう思わない	3 決めていない
--------	----------	----------

### 【将来の進路について】

問 22 将来はどのような分野で仕事をしたいと考えていますか

1 臨床 → 問 22-1, 2 へ	4 保健所等の行政
2 教育	5 その他 ( )
3 研究	6 わからない



#### IV. 臨床研修で身に付いた基本的な臨床知識、技術、態度について

問 25 臨床研修で身に付いた臨床知識、技術、態度についてお尋ねします。以下の項目についてA、B、C、Dのうち、あてはまる記号を○で囲んでください

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| A 確実にできる、自信がある   | C あまり自信がない、ひとりでは不安である |
| B だいたいできる、たぶんできる | D できない                |

1	患者の解釈モデルを聞きだすことができる	A	B	C	D
2	患者の病歴を系統的に聴取できる	A	B	C	D
3	患者と非言語的コミュニケーションができる	A	B	C	D
4	バイタルサインを取ることができる	A	B	C	D
5	皮膚の所見を記述できる	A	B	C	D
6	眼底所見により、動脈硬化の有無を判定できる	A	B	C	D
7	鼓膜を観察し、異常の有無を判定できる	A	B	C	D
8	甲状腺の触診ができる	A	B	C	D
9	心尖拍動を触知できる	A	B	C	D
10	心雑音を聴取し、記載できる	A	B	C	D
11	ラ音を聴取し、記載できる	A	B	C	D
12	筋性防御の有無を判定できる	A	B	C	D
13	直腸診で前立腺の異常を判断できる	A	B	C	D
14	妊娠の初期兆候を把握できる	A	B	C	D
15	双手診により女性付属器の腫脹を触知できる	A	B	C	D
16	関節可動域を検査できる	A	B	C	D
17	髄膜刺激所見をとることができる	A	B	C	D
18	小児の精神運動発達の異常を判断できる	A	B	C	D
19	うつ病の診断基準を述べることができる	A	B	C	D
20	骨折、脱臼、捻挫の鑑別診断ができる	A	B	C	D
21	尿沈査の鏡検で、赤血球、白血球、円柱を区別できる	A	B	C	D
22	便の潜血反応を実施し、結果を解釈することができる	A	B	C	D
23	血液ガス分析の適応が判断でき、結果の解釈ができる	A	B	C	D
24	血算・白血球分画検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	A	B	C	D
25	血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	A	B	C	D
26	血液凝固機構に関する検査を指示し、結果を判定できる	A	B	C	D
27	簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）の適応が判断でき、結果の解釈ができる	A	B	C	D
28	血液免疫血清学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	A	B	C	D
29	内分泌学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	A	B	C	D
30	グラム染色を行い、結果の解釈ができる	A	B	C	D
31	髄液検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	A	B	C	D

32	心電図検査を自ら実施し、不整脈の鑑別診断ができる	A	B	C	D
33	肺機能検査で閉塞性換気障害の判定ができる	A	B	C	D
34	超音波検査を自ら実施し、胆管拡張の判定ができる	A	B	C	D
35	胸部単純X線でシルエットサインを判定できる	A	B	C	D
36	腹部単純X線でイレウスを判定できる	A	B	C	D
37	胸部CTで肺癌による所見を見出すことができる	A	B	C	D
38	頭部MRI検査の適応が判断でき、脳梗塞を判定できる	A	B	C	D
39	手術の手洗いが適切にできる	A	B	C	D
40	静脈血採血が正しくできる	A	B	C	D
41	動脈血採血が正しくできる	A	B	C	D
42	血液型クロスマッチを行い、結果の判定ができる	A	B	C	D
43	輸液の種類と適応を挙げ、輸液の量を決定できる	A	B	C	D
44	腰椎穿刺を実施できる	A	B	C	D
45	導尿法を実施できる	A	B	C	D
46	抗菌薬の作用・副作用を理解し、処方できる	A	B	C	D
47	局所浸潤麻酔とその副作用に対する処置が行える	A	B	C	D
48	傷病の基本的処置として、デブリードマンができる	A	B	C	D
49	皮膚縫合法を実施できる	A	B	C	D
50	術後起こりうる合併症及び異常に対して基本的な対処ができる	A	B	C	D
51	術前患者の不安に対し、心理的配慮をした処置ができる	A	B	C	D
52	心マッサージができる	A	B	C	D
53	気管挿管ができる	A	B	C	D
54	レスピレーターを装着し、調節できる	A	B	C	D
55	電氣的除細動の適応を挙げ、実施できる	A	B	C	D
56	救急患者の重傷度および緊急度を判断できる	A	B	C	D
57	ショックの診断と治療ができる	A	B	C	D
58	末期患者の家族に病気を説明し、家族の心理的不安を受け止めることができる	A	B	C	D
59	在宅医療を希望する末期患者のために、環境整備を指導できる	A	B	C	D
60	緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む）のチーム医療に参加できる	A	B	C	D
61	患者の身体的側面だけでなく、心理社会的側面に配慮した治療ができる	A	B	C	D
62	医療費や社会福祉サービスに関する患者、家族の相談に応じ、解決法を指導できる	A	B	C	D
63	インフォームドコンセントをとることが実施できる	A	B	C	D
64	指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる	A	B	C	D
65	糖尿病患者への健康教育（健康相談および指導）ができる	A	B	C	D
66	日常よく行う処置、検査等の保険点数を知っている	A	B	C	D
67	ソーシャルワーカーの役割を理解し、協同して患者ケアを行える	A	B	C	D
68	禁煙指導ができる	A	B	C	D

69	患者の知識や関心のレベルに応じた健康教育ができる	A	B	C	D
70	在宅医療の適応の判断ができる	A	B	C	D
71	地域の医療資源を活用し、入院患者の退院後も継続性のある医療を提供できるよう調整することができる	A	B	C	D
72	社会福祉施設等の役割について理解し、連携をとることができる	A	B	C	D
73	診療上湧き上がってきた疑問点について、Medline で文献検索ができる	A	B	C	D
74	カンファレンス等で簡潔に受持患者のプレゼンテーションできる	A	B	C	D
75	診療録（退院時サマリーを含む）を POS (Problem Oriented System) に従って記載し管理できる	A	B	C	D
76	研究デザインを理解して、論文を読むことができる	A	B	C	D
77	学会で症例報告ができる	A	B	C	D
78	データの種類に応じて適切な統計学的解析ができる	A	B	C	D
79	医療上の安全確認の基本的な考え方を理解し、実施できる	A	B	C	D
80	医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる	A	B	C	D
81	院内感染対策 (Standard Precautions を含む) の基本を理解し、実施できる	A	B	C	D
82	高齢者の聴力・視力・認知面での障害の有無に配慮した、病歴聴取を行うことができる	A	B	C	D
83	高齢者の症状が非特異的、非典型的であることを理解して、身体所見をとることができる	A	B	C	D
84	高齢者の身体的、精神的、社会的活動性をできるだけ良好に維持するような治療法を呈示することができる	A	B	C	D
85	小児の精神運動発達の異常を判断できる	A	B	C	D
86	小児の採血、点滴ができる	A	B	C	D
87	患児の身体的苦痛のみならず、精神的ケアにも配慮できる	A	B	C	D
88	患児の年齢や理解度に応じた説明ができる	A	B	C	D
89	代表的な精神科疾患について、診断および治療ができる	A	B	C	D
90	精神科領域の薬物治療に伴うことの多い障害について理解し、適切な検査・処置ができる	A	B	C	D
91	精神科コメディカルスタッフ (PSW 等) の業務を理解し、連携してケアを行うことができる	A	B	C	D
92	地域の精神保健福祉に関する支援体制状況に関する知識を持ち、適切な連携をとることができる	A	B	C	D
93	守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。	A	B	C	D
94	患者の基本的権利について説明できる。	A	B	C	D
94	自己決定できない患者での代理決定について判断できる	A	B	C	D
95	診療計画 (診断、治療、患者・家族への説明を含む) を作成できる。	A	B	C	D
96	診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。	A	B	C	D

## V. 臨床研修での経験症例数について

問 26 あなたの経験症例数をお尋ねします。以下の項目について、2年の研修期間中、入院患者あるいは外来患者で、あなたの経験した数についてあてはまるもの（症例数）を○で囲んでください

### 問 26-1 症状・病態について

1	不眠	0例	1~5例	6~10例	11例~
2	浮腫	0例	1~5例	6~10例	11例~
3	リンパ節腫脹	0例	1~5例	6~10例	11例~
4	発疹	0例	1~5例	6~10例	11例~
5	発熱	0例	1~5例	6~10例	11例~
6	頭痛	0例	1~5例	6~10例	11例~
7	めまい	0例	1~5例	6~10例	11例~
8	視力障害、視野狭窄	0例	1~5例	6~10例	11例~
9	結膜の充血	0例	1~5例	6~10例	11例~
10	胸痛	0例	1~5例	6~10例	11例~
11	動悸	0例	1~5例	6~10例	11例~
12	呼吸困難	0例	1~5例	6~10例	11例~
13	咳・痰	0例	1~5例	6~10例	11例~
14	嘔気・嘔吐	0例	1~5例	6~10例	11例~
15	腹痛	0例	1~5例	6~10例	11例~
16	便通異常(下痢、便秘)	0例	1~5例	6~10例	11例~
17	腰痛	0例	1~5例	6~10例	11例~
18	四肢のしびれ	0例	1~5例	6~10例	11例~
19	血尿	0例	1~5例	6~10例	11例~
20	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	0例	1~5例	6~10例	11例~
21	不安・抑うつ	0例	1~5例	6~10例	11例~
22	心肺停止	0例	1~5例	6~10例	11例~
23	ショック	0例	1~5例	6~10例	11例~
24	意識障害	0例	1~5例	6~10例	11例~
25	脳血管障害	0例	1~5例	6~10例	11例~
26	急性心不全	0例	1~5例	6~10例	11例~
27	急性冠症候群	0例	1~5例	6~10例	11例~
28	急性腹症	0例	1~5例	6~10例	11例~
29	急性消化管出血	0例	1~5例	6~10例	11例~
30	外傷	0例	1~5例	6~10例	11例~
31	急性中毒	0例	1~5例	6~10例	11例~
32	誤飲、誤嚥	0例	1~5例	6~10例	11例~
33	熱傷	0例	1~5例	6~10例	11例~
34	自殺企図	0例	1~5例	6~10例	11例~

問 26-2 疾患について（複数の疾患を含む項目は、そのひとつでも経験すれば1例と数え、合計数をご回答ください）

35 貧血（鉄欠乏性貧血、二次性貧血）	0例	1～5例	6～10例	11例～
36 脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）	0例	1～5例	6～10例	11例～
37 湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎）	0例	1～5例	6～10例	11例～
38 蕁麻疹	0例	1～5例	6～10例	11例～
39 皮膚感染症	0例	1～5例	6～10例	11例～
40 骨折	0例	1～5例	6～10例	11例～
41 関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷	0例	1～5例	6～10例	11例～
42 骨粗鬆症	0例	1～5例	6～10例	11例～
43 脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）	0例	1～5例	6～10例	11例～
44 心不全	0例	1～5例	6～10例	11例～
45 狭心症、心筋梗塞	0例	1～5例	6～10例	11例～
46 不整脈（主要な頻脈性、徐脈性不整脈）	0例	1～5例	6～10例	11例～
47 動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤）	0例	1～5例	6～10例	11例～
48 高血圧症（本態性、二次性高血圧症）	0例	1～5例	6～10例	11例～
49 呼吸不全	0例	1～5例	6～10例	11例～
50 呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）	0例	1～5例	6～10例	11例～
51 閉塞性・拘束性肺疾患（気管支喘息、気管支拡張症）	0例	1～5例	6～10例	11例～
52 食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）	0例	1～5例	6～10例	11例～
53 小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔漏）	0例	1～5例	6～10例	11例～
54 肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）	0例	1～5例	6～10例	11例～
55 横隔膜・腹壁・腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）	0例	1～5例	6～10例	11例～
56 腎不全（急性・慢性腎不全、透析）	0例	1～5例	6～10例	11例～
57 泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症）	0例	1～5例	6～10例	11例～
58 妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥）	0例	1～5例	6～10例	11例～
59 男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍）	0例	1～5例	6～10例	11例～
60 糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）	0例	1～5例	6～10例	11例～
61 高脂血症	0例	1～5例	6～10例	11例～
62 屈折異常（近視、遠視、乱視）	0例	1～5例	6～10例	11例～
63 角結膜炎	0例	1～5例	6～10例	11例～
64 白内障	0例	1～5例	6～10例	11例～
65 緑内障	0例	1～5例	6～10例	11例～
66 中耳炎	0例	1～5例	6～10例	11例～
67 アレルギー性鼻炎	0例	1～5例	6～10例	11例～
68 痴呆（血管性痴呆を含む）	0例	1～5例	6～10例	11例～
69 うつ病	0例	1～5例	6～10例	11例～

70	統合失調症(精神分裂病)	0例	1～5例	6～10例	11例～
71	身体表現性障害、ストレス関連障害	0例	1～5例	6～10例	11例～
72	ウイルス感染症(インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎)	0例	1～5例	6～10例	11例～
73	細菌感染症(ブドウ球菌、MRSA、A群連鎖球菌、クラミジア)	0例	1～5例	6～10例	11例～
74	結核	0例	1～5例	6～10例	11例～
75	慢性関節リウマチ	0例	1～5例	6～10例	11例～
76	アレルギー疾患	0例	1～5例	6～10例	11例～
77	熱傷	0例	1～5例	6～10例	11例～
78	小児けいれん性疾患	0例	1～5例	6～10例	11例～
79	小児ウイルス感染症(麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ)	0例	1～5例	6～10例	11例～
80	小児喘息	0例	1～5例	6～10例	11例～
81	高齢者の栄養摂取障害	0例	1～5例	6～10例	11例～
82	老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡)	0例	1～5例	6～10例	11例～

問 26-3 医療記録について

83	死亡診断書	0通	1～5通	6～10通	11通～
84	死体検案書	0通	1・2通	3・4通	5通～
85	CPC レポート(剖検報告)	0例	1・2例	3・4例	5例～
86	紹介状	0通	1～5通	6～10通	11通～

**\*\*\* 調査は以上です。ご協力ありがとうございました。\*\*\***